

第4章 主要商圈の構造

※再掲※

＜商圈設定の基準＞

商圈の設定は、調査対象品目のうち衣料品〔4品目：①紳士服、②婦人服、③子供・ベビー服、④実用衣料（シャツ・下着・靴下等）〕に対する消費者の購買地への吸引率（他市町村からみれば流出率）を基準としている。

1. 千葉商圏（商業中心都市）

（1）商圏の概要

千葉商圏は、県中央部分一帯を中心に形成されており、前回調査時では10市8町1村であったが、1市1町が圏外となり、9市7町1村となった。

第1次商圏は、前回調査時と変わらず1市となった。（吸引率 81.4%）

第2次商圏は、前回調査時の4市5町1村のうち、1市4町1村が第3次商圏へ移動し、さらに1町は圏外となり、3市となった。（吸引率 21.7%）

第3次商圏は、前回調査時の5市3町に、第2次商圏から1市4町1村が加わり、1市が圏外となり、5市7町1村となった。（吸引率 8.1%）

商圏人口は、前回調査時（1,922,987人）から4.8%減少して1,831,142人（千葉市人口の約1.9倍・県人口の29.2%）となった。

商圏内吸引率は、前回調査時（49.3%）から0.6ポイント増加して49.9%となった。

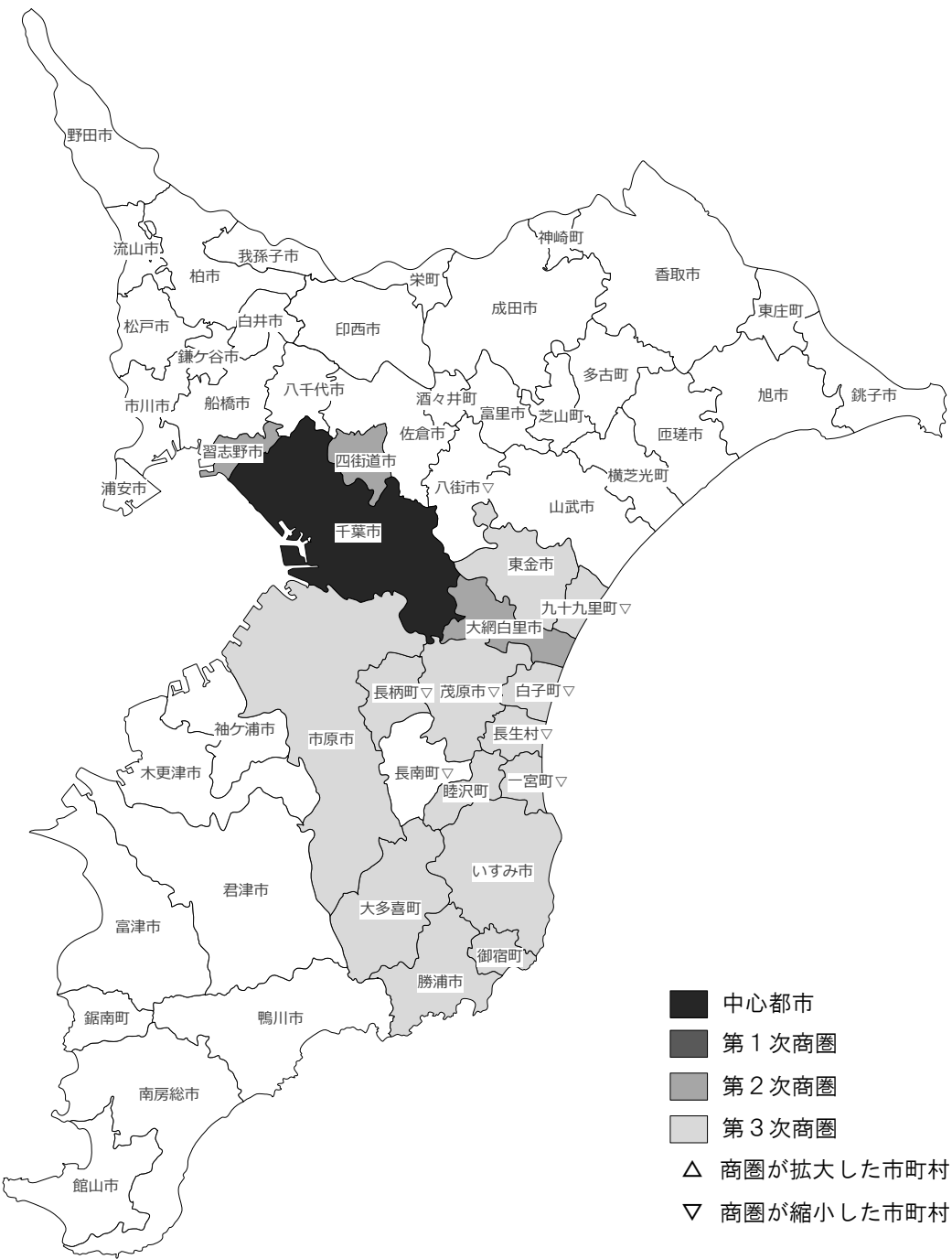
吸引人口は、前回調査時（948,498人）から3.7%減少して913,234人（千葉市人口の92.8%・県人口の14.5%）となった。

吸引力は、前回調査時（97.0%）から4.2ポイント減少して92.8%となった。

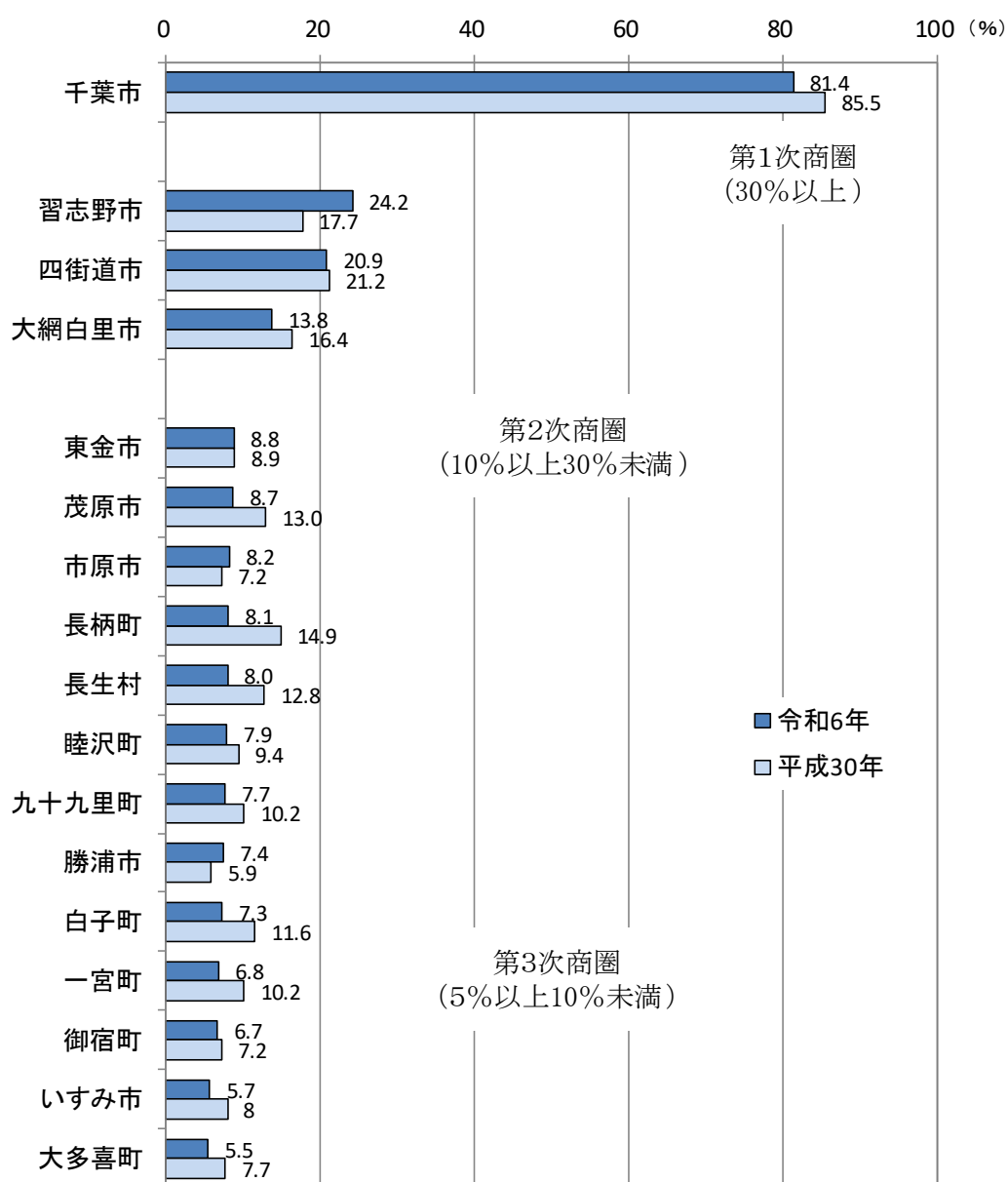
図表4-1-1 千葉商圏の市町村別吸引率・商圏人口・吸引人口

商圏 (基準吸引率)	令和6年					平成30年		
	市町村	市町村 吸引率	市町村 人口 (商圏人口)	吸引人口	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
第1次商圏 (30%以上)	計	1	81.4%	984,453	801,722	計	1	85.5%
	千葉市		81.4%	984,453	801,722	千葉市		85.5%
第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	3	21.7%	317,997	68,900	計	10	16.5%
	習志野市		24.2%	176,214	42,637	四街道市		21.2%
	四街道市		20.9%	94,798	19,798	習志野市		17.7%
	大網白里市		13.8%	46,985	6,465	大網白里市		16.4%
						長柄町		14.9% 第3次へ
						茂原市		13.0% 第3次へ
						長生村		12.8% 第3次へ
						白子町		11.6% 第3次へ
						長南町		11.5% 圏外へ
						九十九里町		10.2% 第3次へ
第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	13	8.1%	528,692	42,612	一宮町		10.2% 第3次へ
	東金市		8.8%	57,098	5,038	計	8	7.5%
	茂原市		8.7%	84,470	7,354	睦沢町		9.4%
	市原市		8.2%	263,085	21,687	東金市		8.9%
	長柄町		8.1%	6,228	505	いすみ市		8.0%
	長生村		8.0%	13,138	1,049	大多喜町		7.7%
	睦沢町		7.9%	6,394	506	市原市		7.2%
	九十九里町		7.7%	13,372	1,025	御宿町		7.2%
	勝浦市		7.4%	15,384	1,145	八街市		7.1% 圏外へ
	白子町		7.3%	9,711	708	勝浦市		5.9%
	一宮町		6.8%	11,847	810			
	御宿町		6.7%	6,491	433			
	いすみ市		5.7%	33,320	1,906			
	大多喜町		5.5%	8,154	445			
合計	17	49.9%	1,831,142	913,234		19	49.3%	

図表4-1-2 千葉商圏（衣料品）



図表4-1-3 千葉商圏の吸引状況（市町村別）



第4章 主要商圏の構造

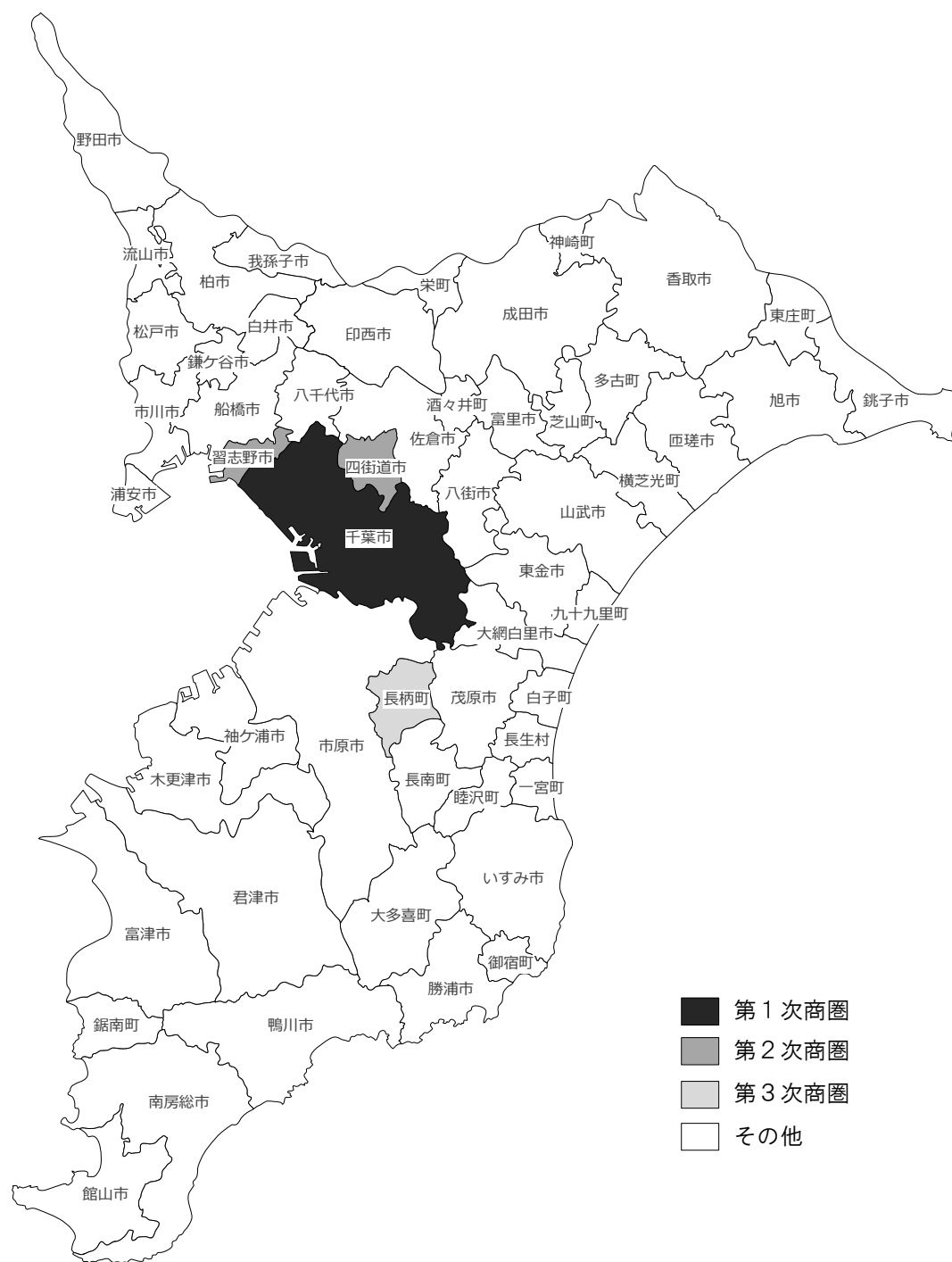
(2) その他品目における商圏内市町村の具体的な変化

その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における千葉商圏内の市町村の変化を以下に示す。

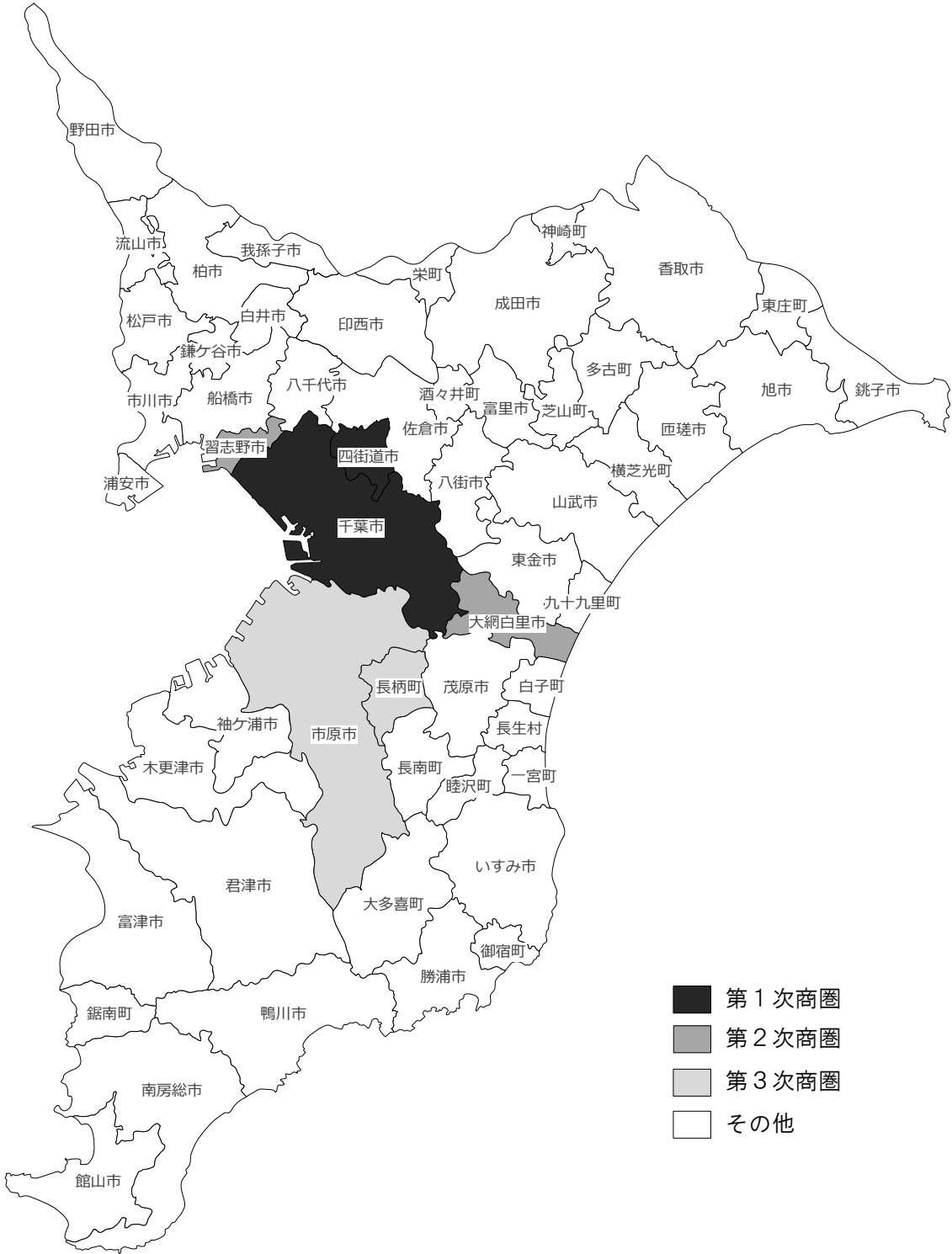
図表4-1-4 千葉商圏の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

	商圏 (基準吸引率)	令和6年			平成30年		
		市町村	市町村 吸引率	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
食料品	第1次商圏 (30%以上)	計	1	97.6%	計	1	98.3%
		千葉市		97.6%	千葉市		98.3%
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	2	13.6%	計	0	
		四街道市		14.1%			
		習志野市		13.3%			
	第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	1	9.3%	計	2	9.0%
		長柄町		9.3%	四街道市		9.1%
飲食				新規	習志野市		8.9%
	合計		4	79.1%	計	3	79.3%
	第1次商圏 (30%以上)	計	2	93.3%	計	2	91.9%
		千葉市		98.1%	千葉市		97.0%
		四街道市		43.3%	四街道市		37.9%
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	2	26.8%	計	2	19.8%
		習志野市		29.8%	習志野市		21.4%
贈答品		大網白里市		15.6%	大網白里市		14.1%
	第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	2	6.3%	計	3	5.8%
		長柄町		8.2%	八街市		7.6%
		市原市		6.3%	市原市		5.6%
				新規	茂原市		5.2%
	合計		6	69.0%			圏外へ
					計	7	61.2%
贈答品	第1次商圏 (30%以上)	計	2	69.2%	計	3	73.0%
		千葉市		71.7%	千葉市		77.1%
		四街道市		42.6%	四街道市		51.2%
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	20	18.3%	計	18	19.0%
		市原市		27.4%	長柄町		27.6%
		大網白里市		24.9%	茂原市		27.2%
		習志野市		23.1%	市原市		27.0%
		東金市		18.6%	白子町		23.5%
		長生村		17.2%	東金市		21.4%
		長柄町		17.0%	九十九里町		19.8%
		勝浦市		15.4%	睦沢町		19.1%
		茂原市		15.1%	長南町		18.8%
		酒々井町		15.0%	長生村		17.4%
		一宮町		14.5%	習志野市		16.3%
		白子町		14.5%	一宮町		15.1%
		九十九里町		13.8%	八街市		14.8%
		長南町		13.0%	いすみ市		14.8%
		睦沢町		12.5%	御宿町		14.7%
		山武市		11.4%	山武市		13.7%
		いすみ市		11.3%	大多喜町		12.5%
		大多喜町		10.9%	佐倉市		11.5%
		佐倉市		10.5%	袖ヶ浦市		11.2%
		八街市		10.0%			
		袖ヶ浦市		10.0%			
	第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	6	7.3%	計	6	6.3%
		八千代市		7.7%	横芝光町		7.0%
		神崎町		7.7%	勝浦市		7.0%
		横芝光町		7.5%	酒々井町		6.7%
		匝瑳市		7.2%	君津市		6.6%
		木更津市		6.8%	木更津市		6.2%
		鋸南町		5.9%	匝瑳市		5.0%
	合計		28	37.7%	計	27	41.5%

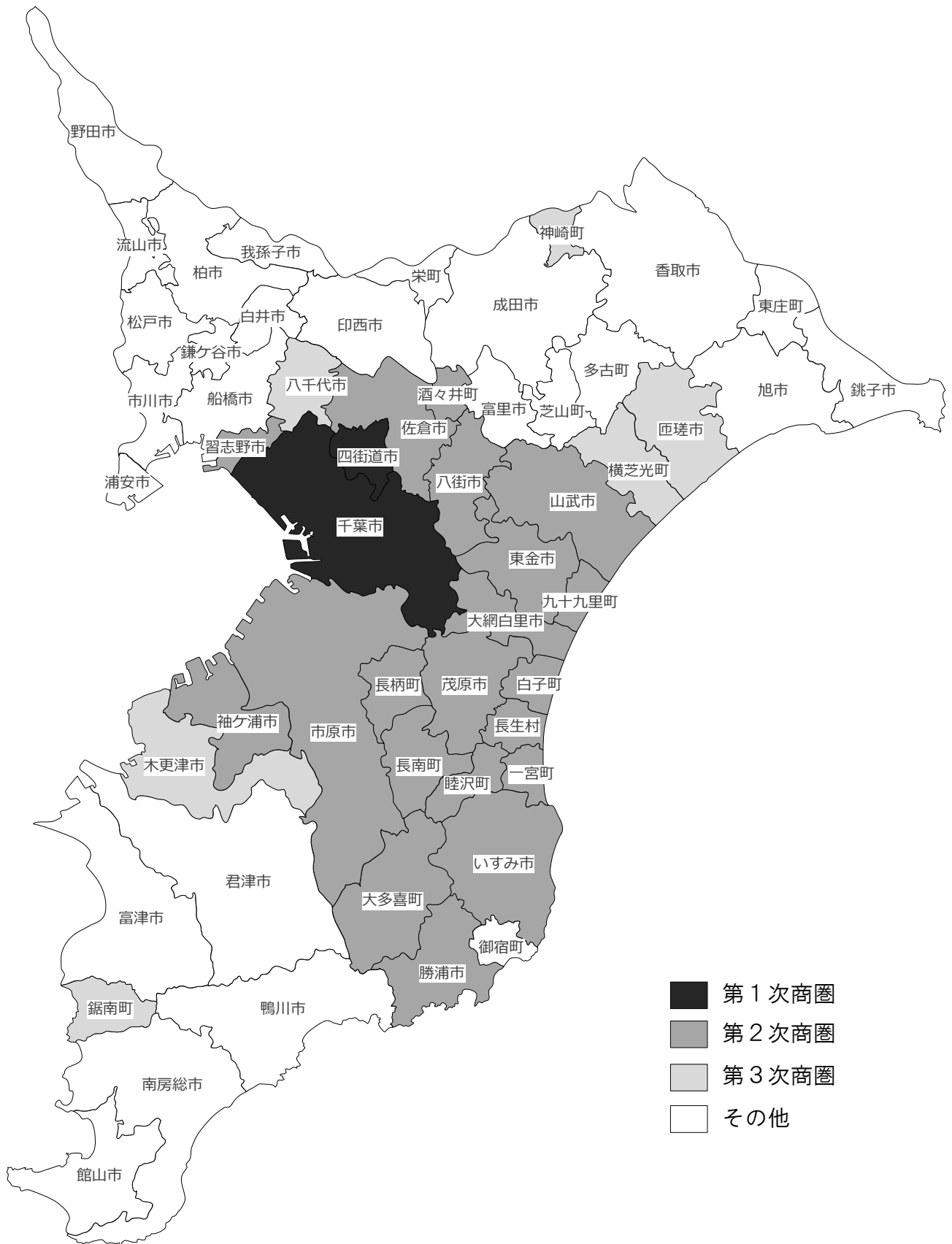
図表4-1-5 千葉商圏（食料品）



図表4－1－6 千葉商圏（飲食）



図表4-1-7 千葉商圏（贈答品）



2. 成田商圏（商業中心都市）

（1）商圏の概要

成田商圏は、県北東部に形成されており、前回調査時では9市7町であったが、2市1町が圏外となり、7市6町となった。

第1次商圏は、前回調査時と変わらず2市5町となった（吸引率 66.8%）

第2次商圏は、前回調査時の5市2町のうち、1市が第3次商圏へ移動し、さらに1町が圏外となり、4市1町となった。（吸引率 17.9%）

第3次商圏は、前回調査時の2市がともに圏外となる一方、第2次商圏から1市が加わり、1市となった。（吸引率 8.0%）

商圏人口は、前回調査時（814,391 人）から 35.1%減少して 528,251 人（成田市人口の約 3.9 倍・県人口の 8.4%）となった。

商圏内吸引率は、前回調査時（30.0%）から 8.4 ポイント増加して 38.4%となった。

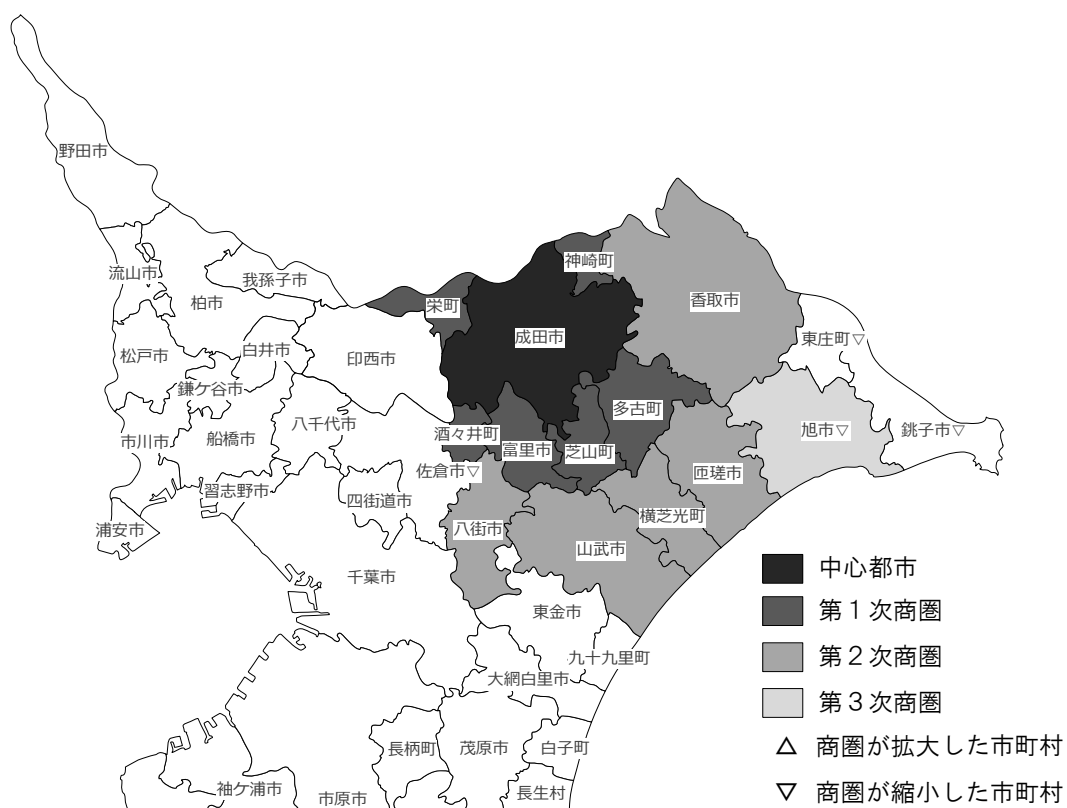
吸引人口は、前回調査時（244,071 人）から 16.9%減少して 202,847 人（成田市人口の約 1.5 倍・県人口の 3.2%）となった。

吸引力は、前回調査時（183.8%）から 32.3 ポイント減少して 151.5%となった。

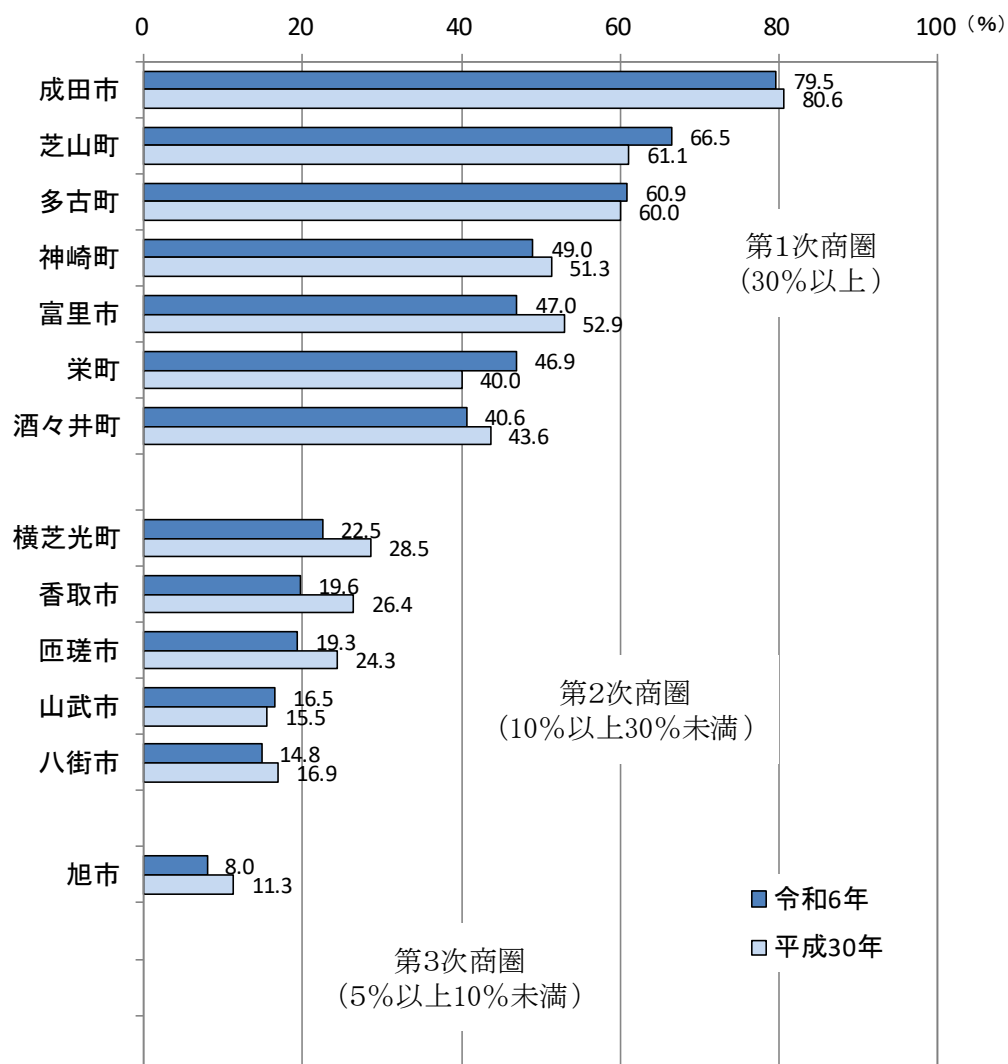
図表4-2-1 成田商圏の市町村別吸引率・商圏人口・吸引人口

商圏 (基準吸引率)	令和6年					平成30年		
	市町村	市町村 吸引率	市町村 人口 (商圏人口)	吸引人口	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
第1次商圏 (30%以上)	計	7	66.8%	234,113	156,332	計	7	66.3%
	成田市		79.5%	133,904	106,480	成田市		80.6%
	芝山町		66.5%	6,569	4,365	芝山町		61.1%
	多古町		60.9%	12,808	7,799	多古町		60.0%
	神崎町		49.0%	5,546	2,719	富里市		52.9%
	富里市		47.0%	49,505	23,272	神崎町		51.3%
	栄町		46.9%	19,553	9,168	酒々井町		43.6%
	酒々井町		40.6%	6,228	2,529	栄町		40.0%
第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	5	17.9%	232,995	41,598	計	7	19.2%
	横芝光町		22.5%	20,914	4,697	横芝光町		28.5%
	香取市		19.6%	67,801	13,319	香取市		26.4%
	匝瑳市		19.3%	32,829	6,341	匝瑳市		24.3%
	山武市		16.5%	45,973	7,567	八街市		16.9%
	八街市		14.8%	65,478	9,674	山武市		15.5%
						東庄町		12.8% 圏外へ
第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	1	8.0%	61,143	4,916	旭市		11.3% 第3次へ
	旭市		8.0%	61,143	4,916	計	2	6.0%
合計		13	38.4%	528,251	202,847	銚子市		6.4% 圏外へ
						佐倉市		5.9% 圏外へ
						計	16	30.0%

図表4-2-2 成田商圏（衣料品）



図表4-2-3 成田商圏の吸引状況（市町村別）



(2) その他品目における商圏内市町村の具体的な変化

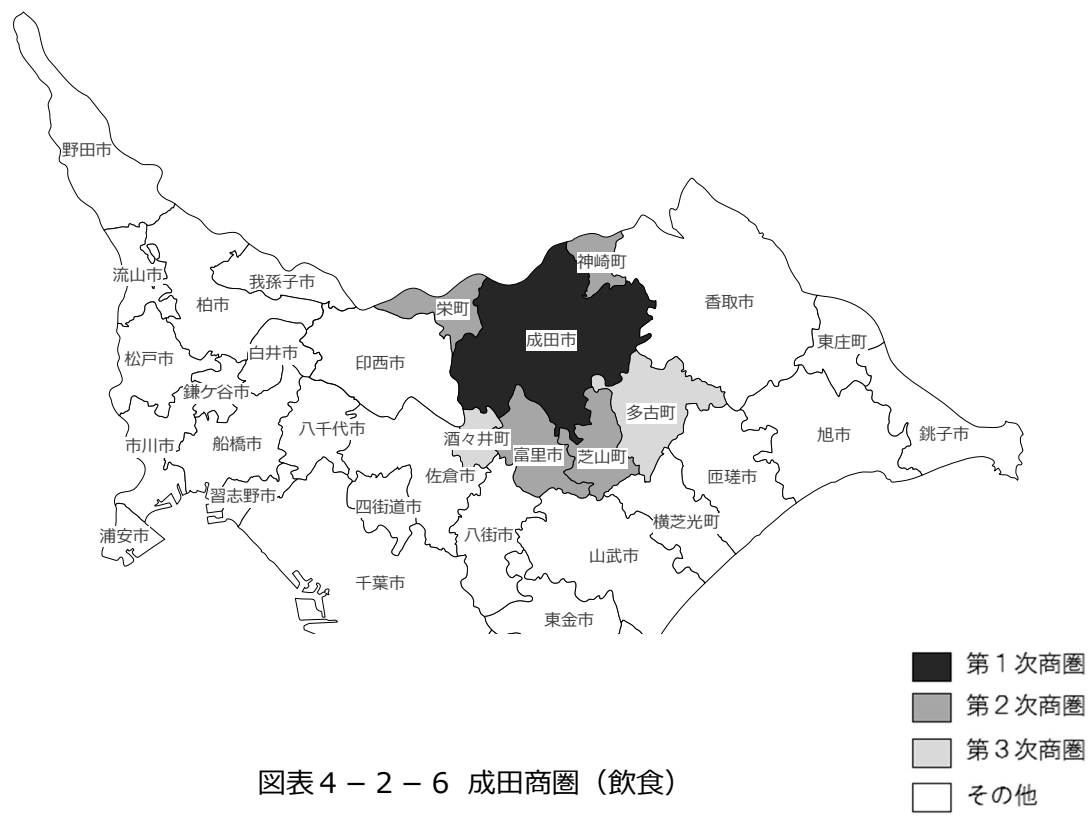
その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における成田商圏内の市町村の変化を以下に示す。

図表4-2-4 成田商圏の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

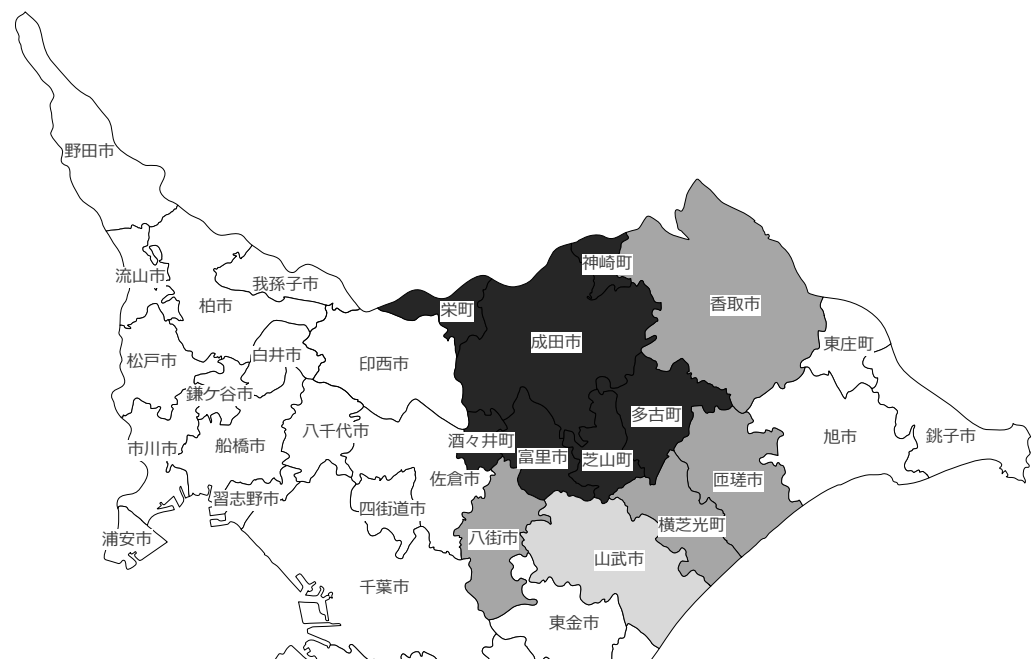
	商圏 (基準吸引率)	令和6年			平成30年		
		市町村	市町村 吸引率	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
食料品	第1次商圏 (30%以上)	計	1 88.2%		計	1 90.1%	
		成田市	88.2%		成田市	90.1%	
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	4 13.5%		計	4 12.7%	
		栄町	20.0%		芝山町	18.2%	
		芝山町	15.1%		神崎町	14.2%	
		神崎町	12.9%		栄町	12.2%	
		富里市	10.7%		富里市	11.9%	
	第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	2 7.0%		計	0	
		酒々井町	7.3%	新規			
		多古町	6.4%	新規			
	合計	7	52.9%		5	60.2%	
飲食	第1次商圏 (30%以上)	計	7 76.3%		計	7 76.8%	
		成田市	92.7%		成田市	92.4%	
		芝山町	74.1%		多古町	66.3%	
		栄町	71.8%		神崎町	63.4%	
		神崎町	65.8%		栄町	60.2%	
		多古町	63.4%		芝山町	60.2%	
		酒々井町	50.5%		富里市	57.1%	
		富里市	49.1%		酒々井町	57.0%	
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	4 15.2%		計	4 19.1%	
		匝瑳市	16.2%		香取市	21.5%	
		八街市	15.7%		横芝光町	20.3%	
		香取市	15.2%		匝瑳市	17.2%	
		横芝光町	12.0%		八街市	17.1%	
	第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	1 9.2%		計	1 5.3%	
		山武市	9.2%		山武市	5.3%	
	合計	12	46.1%		12	46.5%	
贈答品	第1次商圏 (30%以上)	計	7 64.4%		計	8 63.6%	
		成田市	74.5%		成田市	76.7%	
		多古町	63.5%		芝山町	62.4%	
		栄町	60.0%		多古町	62.2%	
		芝山町	59.3%		富里市	55.5%	
		富里市	49.3%		神崎町	54.3%	
		神崎町	48.7%		酒々井町	53.4%	
		酒々井町	45.0%		栄町	47.7%	
					横芝光町	32.5%	第2次へ
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	6 17.2%		計	5 22.4%	
		香取市	21.3%		香取市	28.9%	
		匝瑳市	19.2%		匝瑳市	26.8%	
		横芝光町	17.6%	第1次から	八街市	21.0%	
		八街市	17.0%		山武市	13.7%	
		山武市	16.2%		東庄町	13.4%	第3次へ
		旭市	12.6%	第3次から			
	第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	1 7.8%		計	1 7.6%	
		東庄町	7.8%	第2次から	旭市	7.6%	第2次へ
	合計	14	38.1%		14	40.1%	

第4章 主要商圏の構造

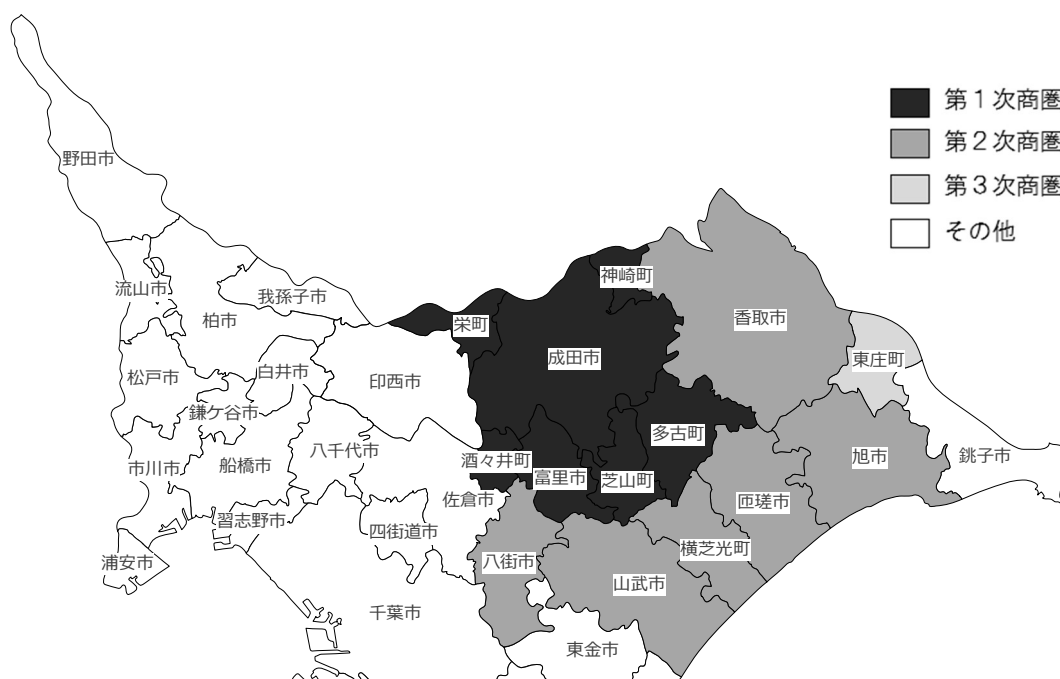
図表4-2-5 成田商圏（食料品）



図表4-2-6 成田商圏（飲食）



図表4-2-7 成田商圏（贈答品）



3. 木更津商圈（商業中心都市）

（1）商圈の概要

木更津商圈は、県南西部に形成されており、前回調査時では7市2町であったが、新たに圏外から1市が加わる一方、1町が圏外となり、8市1町となった。

第1次商圈は、前回調査時の4市に、第2次商圈から1市が加わり、5市となった。（吸引率 59.8%）

第2次商圈は、前回調査時の1市1町のうち、1市が第1次商圈へ移動し、1町となった。（吸引率 22.1%）

第3次商圈は、前回調査時の2市1町に、新たに圏外から1市が加わる一方、1町が圏外となり、3市となった。（吸引率 9.2%）

商圈人口は、前回調査時（458,139人）から2.1%減少して448,548人（木更津市人口の約3.3倍・県人口の7.1%）となった。

商圈内吸引率は、前回調査時（49.4%）から0.5ポイント減少して48.9%となった。

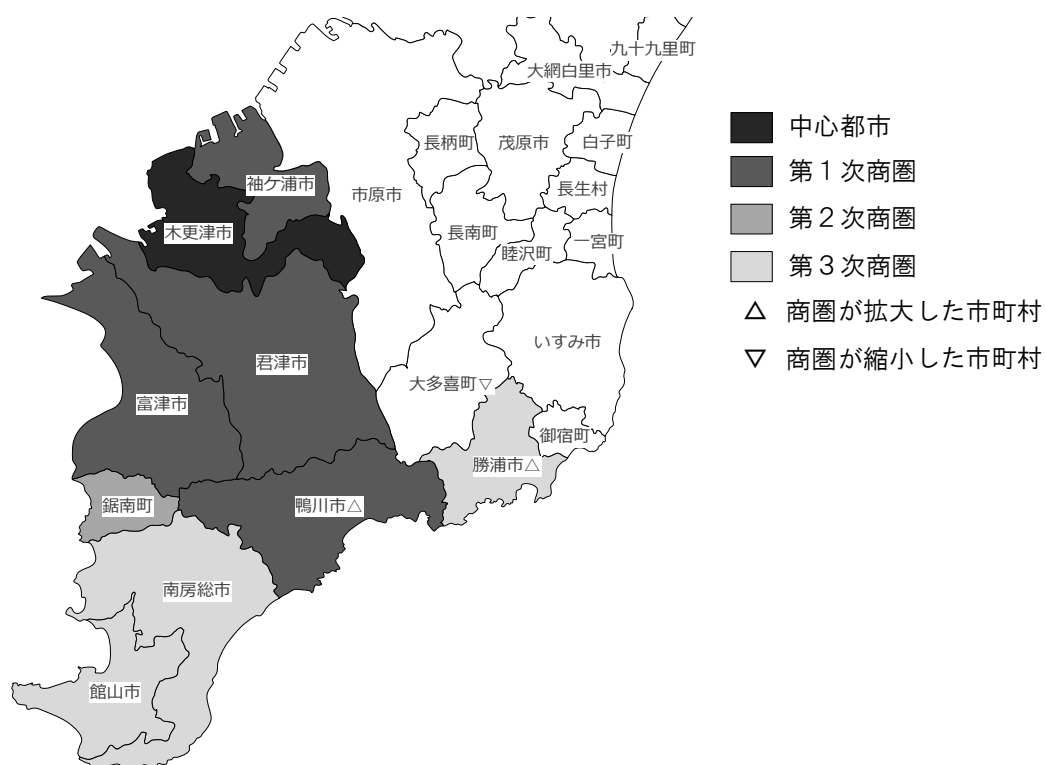
吸引人口は、前回調査時（226,258人）から3.0%減少して219,505人（木更津市人口の約1.6倍・県人口の3.5%）となった。

吸引力は、前回調査時（167.2%）から6.9ポイント減少して160.3%となった。

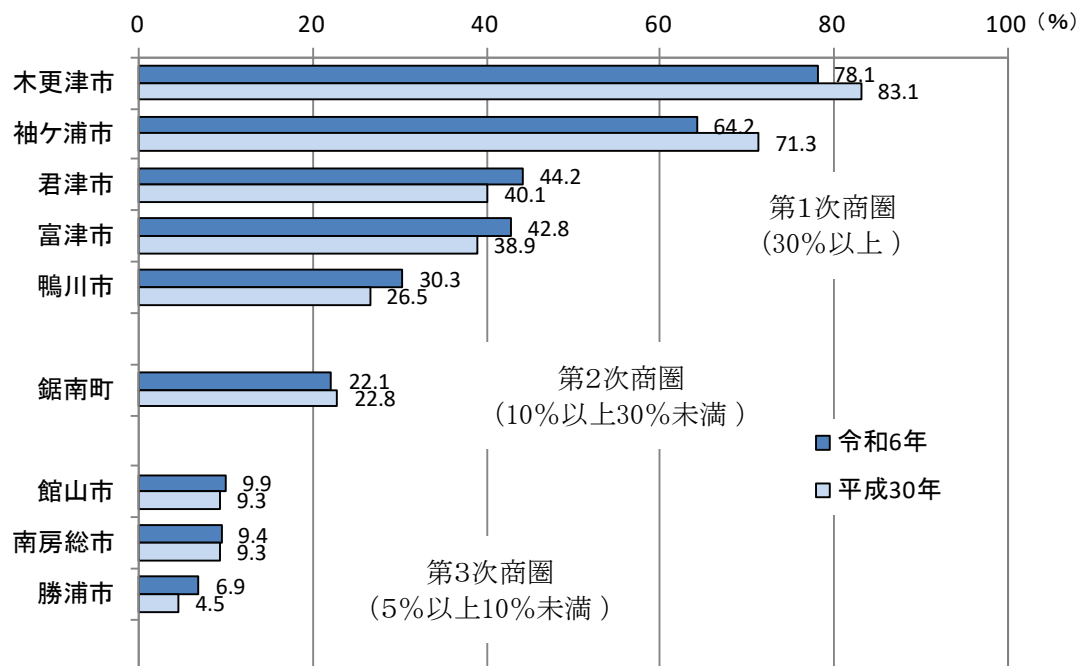
図表4-3-1 木更津商圈の市町村別吸引率・商圈人口・吸引人口

商圈 (基準吸引率)	令和6年					平成30年		
	市町村	市町村 吸引率	市町村 人口 (商圈人口)	吸引人口	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
第1次商圈 (30%以上)	計	5	59.8%	350,848	209,678	計	4	63.8%
	木更津市	78.1%	136,959	106,910		木更津市	83.1%	
	袖ヶ浦市	64.2%	65,118	41,791		袖ヶ浦市	71.3%	
	君津市	44.2%	78,989	34,890		君津市	40.1%	
	富津市	42.8%	39,531	16,916		富津市	38.9%	
	鴨川市	30.3%	30,251	9,170	第2次から			
第2次商圈 (10%以上30%未満)	計	1	22.1%	6,286	1,392	計	2	25.8%
	鋸南町	22.1%	6,286	1,392		鴨川市	26.5%	第1次へ
						鋸南町	22.8%	
第3次商圈 (5%以上10%未満)	計	3	9.2%	91,414	8,436	計	3	8.9%
	館山市	9.9%	43,030	4,264		館山市	9.3%	
	南房総市	9.4%	33,000	3,115		南房総市	9.3%	
	勝浦市	6.9%	15,384	1,057	新規	大多喜町	5.8%	圏外へ
合計		9	48.9%	448,548	219,505		9	49.4%

図表4-3-2 木更津商圏（衣料品）



図表4-3-3 木更津商圏の吸引状況（市町村別）



第4章 主要商圈の構造

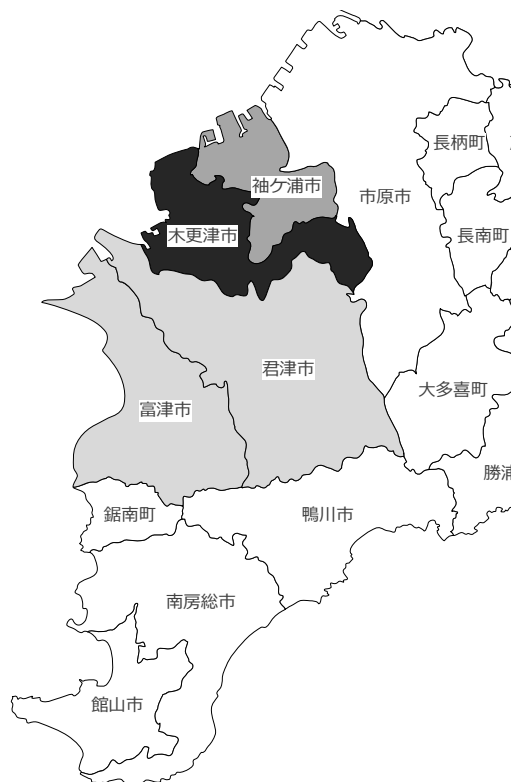
(2) その他品目における商圈内市町村の具体的な変化

その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における木更津商圈内の市町村の変化を以下に示す。

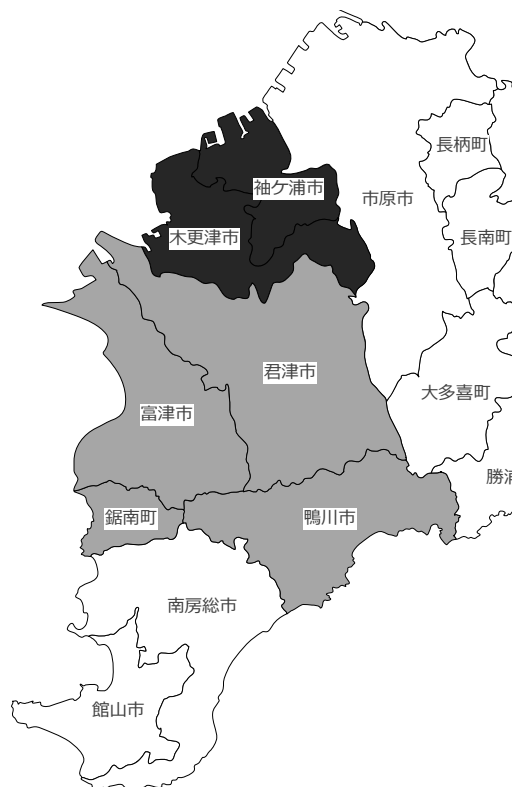
図表4-3-4 木更津商圈の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

	商圈 (基準吸引率)	令和6年			平成30年		
		市町村	市町村 吸引率	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査で区 分の変化
食料品	第1次商圈 (30%以上)	計 1	88.7%		計 1	84.0%	
		木更津市	88.7%		木更津市	84.0%	
	第2次商圈 (10%以上30%未満)	計 1	21.9%		計 1	23.7%	
		袖ヶ浦市	21.9%		袖ヶ浦市	23.7%	
	第3次商圈 (5%以上10%未満)	計 2	5.9%		計 1	7.4%	
		富津市	6.5%	新規	君津市	7.4%	
		君津市	5.6%				
	合計	4	44.5%		3	47.9%	
飲食	第1次商圈 (30%以上)	計 2	77.6%		計 2	77.1%	
		木更津市	85.8%		木更津市	85.0%	
		袖ヶ浦市	60.4%		袖ヶ浦市	59.9%	
	第2次商圈 (10%以上30%未満)	計 4	23.7%		計 4	25.4%	
		君津市	25.3%		富津市	29.4%	
		鋸南町	23.5%		君津市	28.8%	
		富津市	23.5%		鋸南町	17.9%	
		鴨川市	19.8%		鴨川市	13.1%	
	第3次商圈 (5%以上10%未満)	計 0			計 0		
	合計	6	54.2%		6	53.3%	
贈答品	第1次商圈 (30%以上)	計 4	52.1%		計 4	54.1%	
		木更津市	65.5%		木更津市	70.2%	
		袖ヶ浦市	44.3%		袖ヶ浦市	52.9%	
		富津市	43.7%		富津市	38.2%	
		君津市	39.3%		君津市	37.4%	
	第2次商圈 (10%以上30%未満)	計 2	15.1%		計 2	12.4%	
		鴨川市	15.8%		鴨川市	12.7%	
		鋸南町	11.8%		鋸南町	11.1%	
	第3次商圈 (5%以上10%未満)	計 1	6.0%		計 1	6.1%	
		南房総市	6.0%		南房総市	6.1%	
	合計	7	44.7%		7	45.5%	

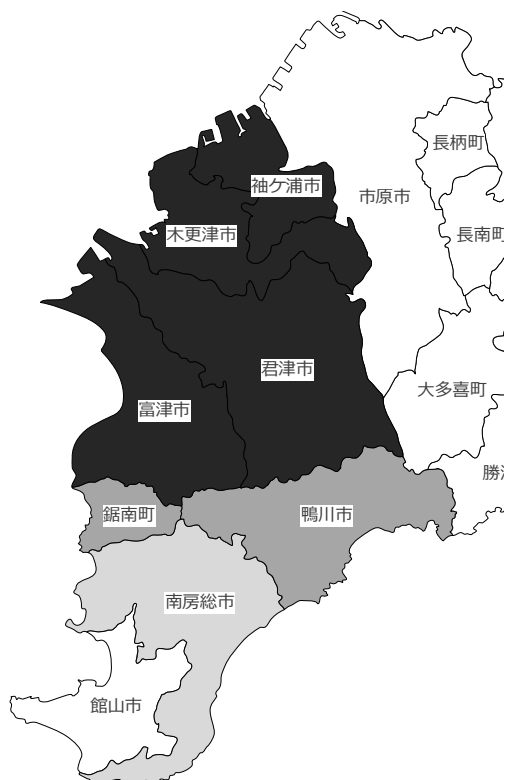
図表4-3-5 木更津商圏（食料品）



図表4-3-6 木更津商圏（飲食）



図表4-3-7 木更津商圏（贈答品）



- 第1次商圏
- 第2次商圏
- 第3次商圏
- その他

4. 市原商圏（準商業中心都市）

（1）商圏の概要

市原商圏は、県中央部に形成されており、前回調査時は1市2町であったが、新たに圏外から1市1町が加わり、2市3町となった。

第1次商圏は、前回調査時と変わらず1市となった。（吸引率 78.0%）

第2次商圏は、前回調査時の1町に、第3次商圏から1町が加わり、2町となった。（吸引率 13.2%）

第3次商圏は、前回調査時の1町が第2次商圏へ移動し、新たに圏外から1市1町加わり、1市1町となった。（吸引率 7.1%）

商圏人口は、前回調査時（288,016人）から4.0%増加して299,453人（市原市人口の約1.1倍・県人口の4.8%）となった。

商圏内吸引率は、前回調査時（78.3%）から8.6ポイント減少して69.7%となった。

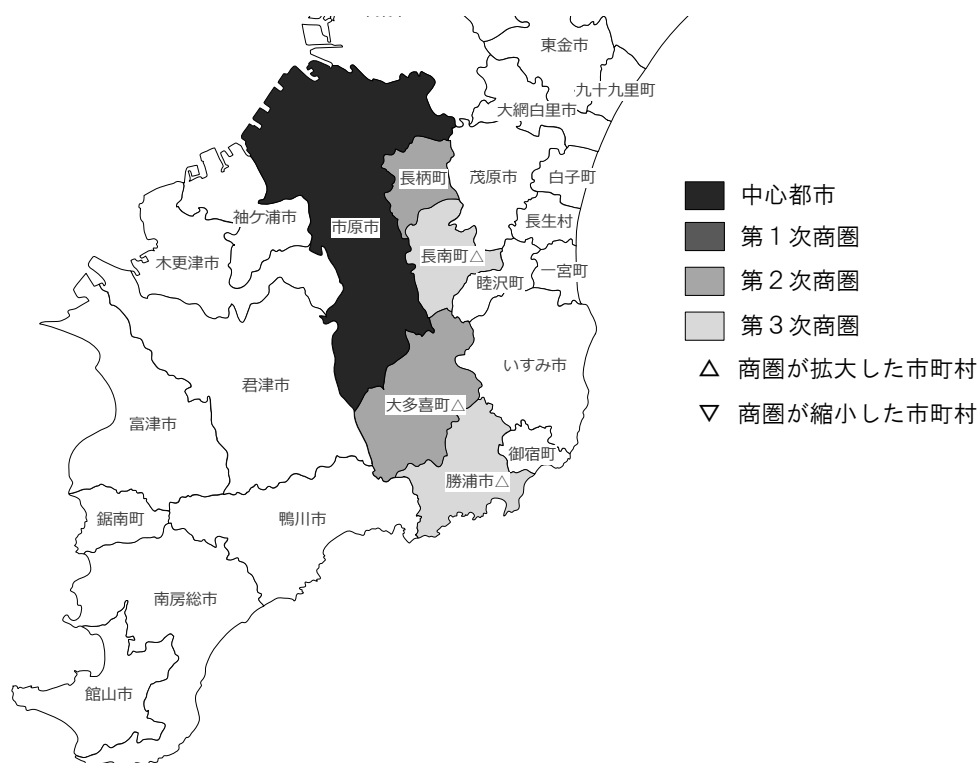
吸引人口は、前回調査時（225,377人）から7.5%減少して208,585人（市原市人口の79.3%・県人口の3.3%）となった。

吸引力は、前回調査時（83.0%）から3.7ポイント減少して79.3%となった。

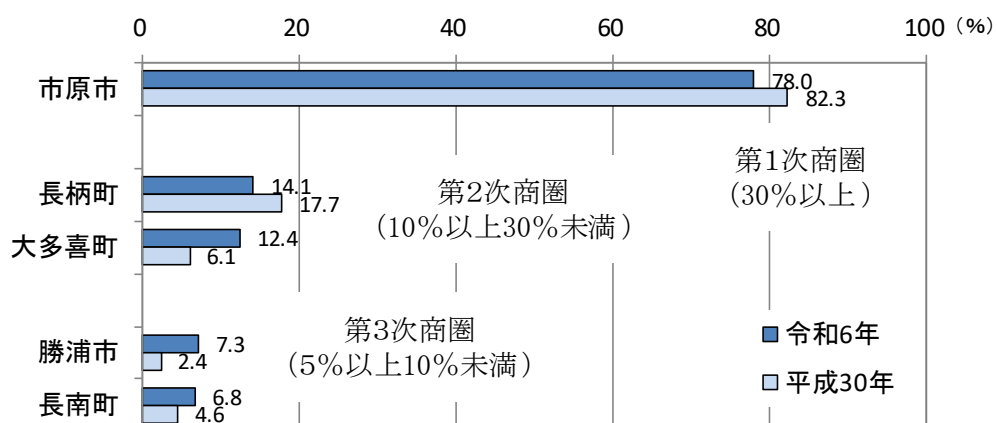
図表4-4-1 市原商圏の市町村別吸引率・商圏人口・吸引人口

商圏 (基準吸引率)	令和6年					平成30年		
	市町村	市町村 吸引率	市町村 人口 (商圏人口)	吸引人口	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
第1次商圏 (30%以上)	計	1	78.0%	263,085	205,127	計	1	82.3%
	市原市		78.0%	263,085	205,127	市原市		82.3%
第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	2	13.2%	14,382	1,892	計	1	17.7%
	長柄町		14.1%	6,228	880	長柄町		17.7%
	大多喜町		12.4%	8,154	1,012			
第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	2	7.1%	21,986	1,565	計	1	6.1%
	勝浦市		7.3%	15,384	1,116	大多喜町		6.1%
	長南町		6.8%	6,602	450			
合計		5	69.7%	299,453	208,585		3	78.3%

図表4-4-2 市原商圏（衣料品）



図表4-4-3 市原商圏の吸引状況（市町村別）



第4章 主要商圈の構造

(2) その他品目における商圈内市町村の具体的な変化

その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における市原商圈内の市町村の変化を以下に示す。

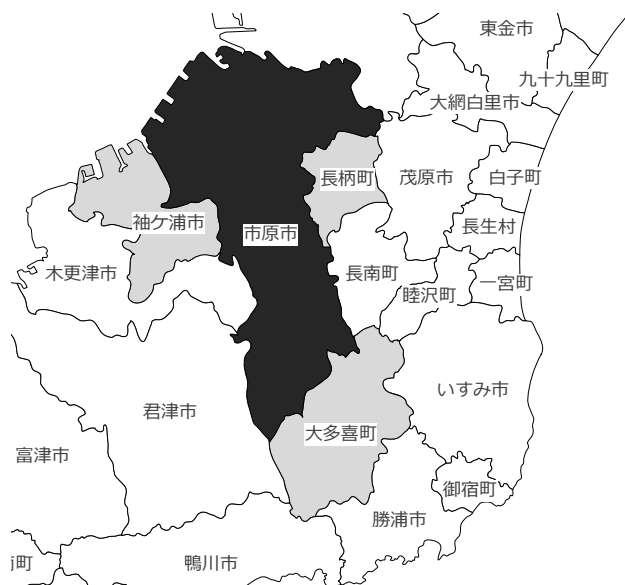
図表4-4-4 市原商圈の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

	商圈 (基準吸引率)	令和6年			平成30年		
		市町村	市町村 吸引率	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
食料品	第1次商圈 (30%以上)	計 1	94.5%		計 1	97.3%	
		市原市	94.5%		市原市	97.3%	
	第2次商圈 (10%以上30%未満)	計 0			計 1	10.9%	
					長柄町	10.9%	第3次へ
	第3次商圈 (5%以上10%未満)	計 1	5.7%		計 0		
		長柄町	5.7%	第2次から			
	合計	2	92.4%		2	95.1%	
飲食	第1次商圈 (30%以上)	計 1	90.2%		計 1	90.9%	
		市原市	90.2%		市原市	90.9%	
	第2次商圈 (10%以上30%未満)	計 0			計 1	14.8%	
					長柄町	14.8%	第3次へ
	第3次商圈 (5%以上10%未満)	計 3	5.9%		計 1	5.3%	
		大多喜町	8.7%	新規	袖ヶ浦市	5.3%	
		長柄町	8.2%	第2次から			
		袖ヶ浦市	5.3%				
	合計	4	70.6%		3	73.7%	
贈答品	第1次商圈 (30%以上)	計 1	47.4%		計 1	57.6%	
		市原市	47.4%		市原市	57.6%	
	第2次商圈 (10%以上30%未満)	計 0			計 1	17.2%	
					長柄町	17.2%	第3次へ
	第3次商圈 (5%以上10%未満)	計 3	7.4%		計 1	6.9%	
		大多喜町	8.9%		大多喜町	6.9%	
		長南町	6.5%	新規			
		長柄町	6.4%	第2次から			
	合計	4	44.4%		3	55.0%	

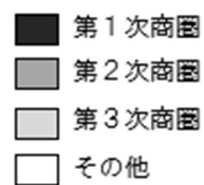
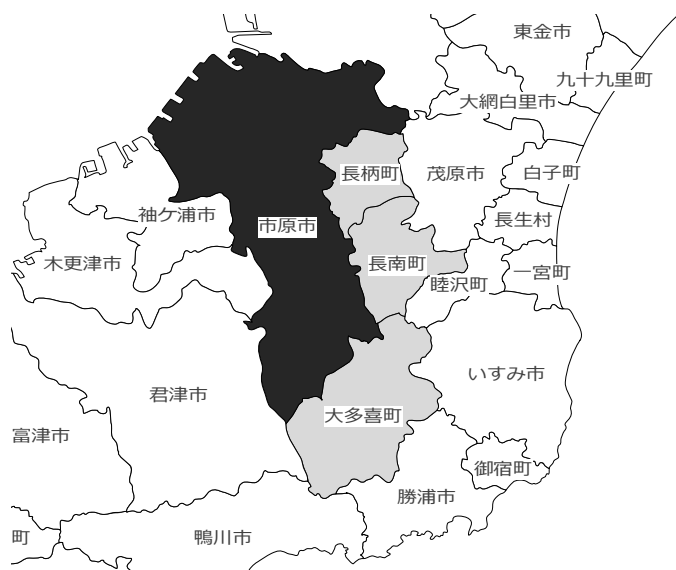
図表4-4-5 市原商圏（食料品）



図表4-4-6 市原商圏（飲食）



図表4-4-7 市原商圏（贈答品）



5. 印西商圏（準商業中心都市）

（1）商圏の概要

印西商圏は、印旛ブロック西部に東葛ブロックの東部を取り込んで形成されており、前回調査時では5市1町であったが、新たに圏外から1町が加わる一方、1市が圏外となり、4市2町となった。

第1次商圏は、前回調査時と変わらず2市となった。（吸引率 63.2%）

第2次商圏も、前回調査時と変わらず1市1町となった。（吸引率 16.2%）

第3次商圏は、前回調査時の2市から、新たに圏外から1町が加わる一方、1市が圏外となり、1市1町となった。（吸引率 6.3%）

商圏人口は、前回調査時（593,001 人）から 24.1%減少して 449,898 人（印西市人口の約 4.1 倍・県人口の 7.2%）となった。

商圏内吸引率は、前回調査時（25.9%）から 5.2 ポイント増加して 31.1%となった。

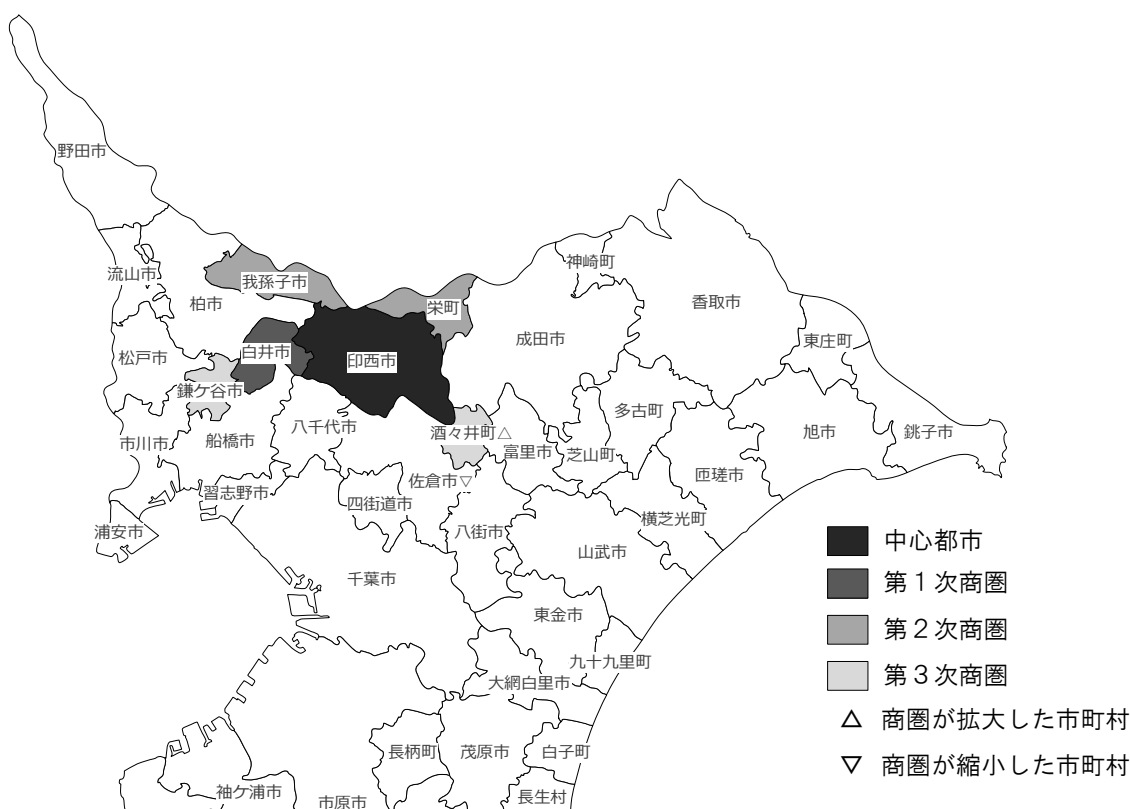
吸引人口は、前回調査時（153,784 人）から 9.0%減少して 140,018 人（印西市人口の約 1.3 倍・県人口の 2.2%）となった。

吸引力は、前回調査時（156.8%）から 28.0 ポイント減少して 128.8%となった。

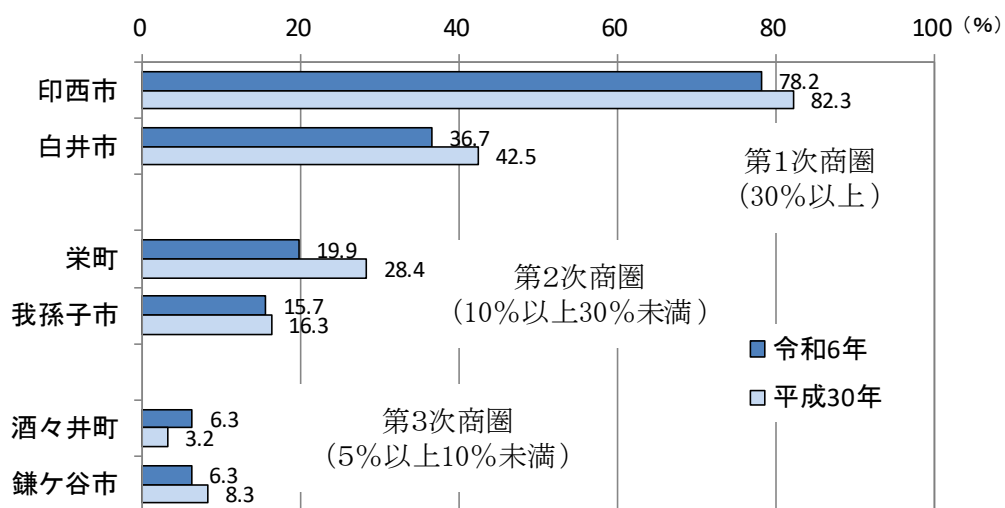
図表 4-5-1 印西商圏の市町村別吸引率・商圏人口・吸引人口

商圏 (基準吸引率)	令和6年					平成30年		
	市町村	市町村 吸引率	市町村 人口 (商圏人口)	吸引人口	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
第1次商圏 (30%以上)	計	2	63.2%	170,258	107,600	計	2	66.8%
	印西市		78.2%	108,704	85,039	印西市		82.3%
	白井市		36.7%	61,554	22,561	白井市		42.5%
第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	2	16.2%	149,717	24,279	計	2	17.9%
	栄町		19.9%	19,553	3,883	栄町		28.4%
	我孫子市		15.7%	130,164	20,396	我孫子市		16.3%
第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	2	6.3%	129,923	8,139	計	2	6.9%
	酒々井町		6.3%	20,168	1,280	鎌ヶ谷市		8.3%
	鎌ヶ谷市		6.3%	109,755	6,860	佐倉市		6.0%
合計	6	31.1%	449,898	140,018		6	25.9%	圏外へ

図表4-5-2 印西商圏（衣料品）



図表4-5-3 印西商圏の吸引状況（市町村別）



第4章 主要商圈の構造

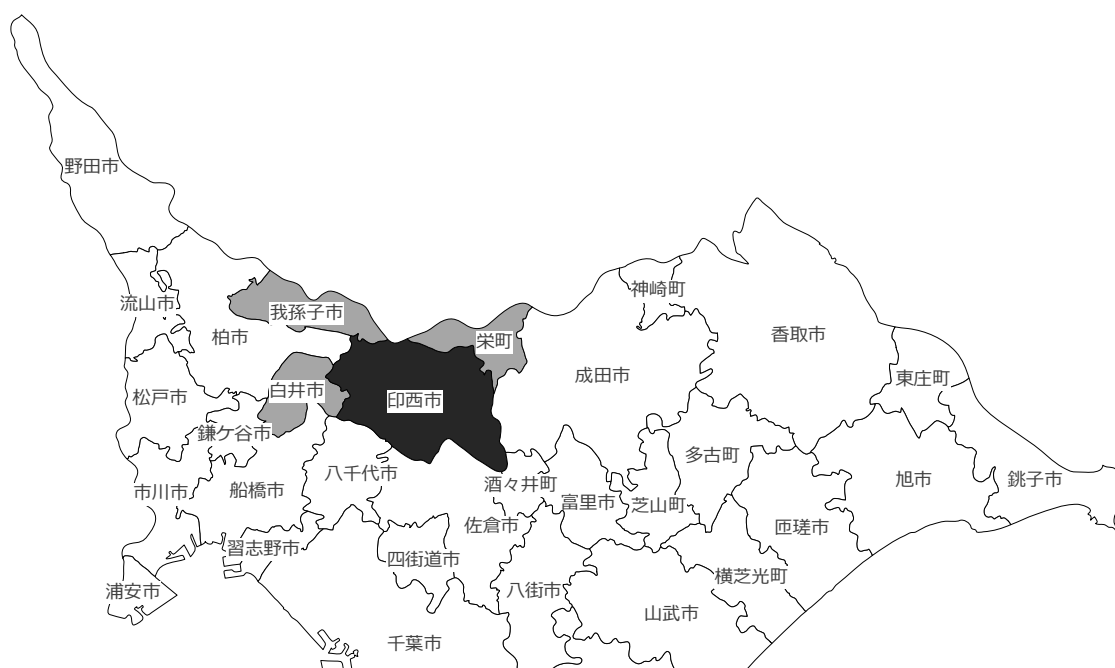
(2) その他品目における商圈内市町村の具体的な変化

その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における印西商圈内の市町村の変化を以下に示す。

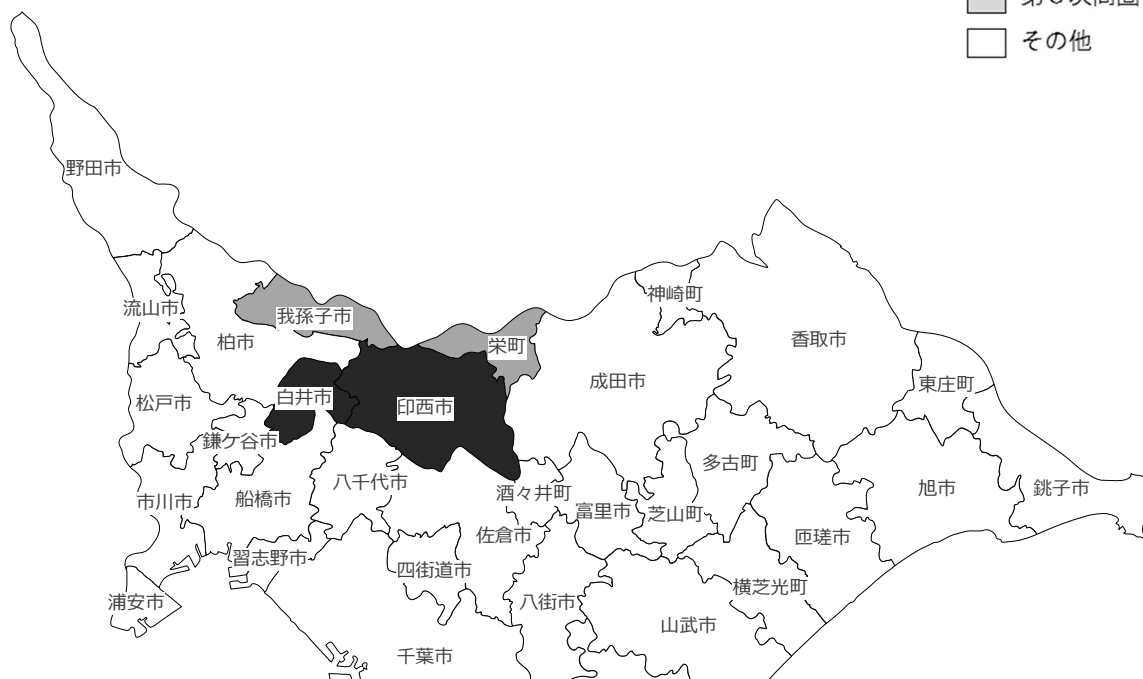
図表4-5-4 印西商圈の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

	商圈 (基準吸引率)	令和6年			平成30年		
		市町村	市町村 吸引率	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	前回調査から の区分の変化
食料品	第1次商圈 (30%以上)	計	1 95.8%		計	1 98.0%	
		印西市	95.8%		印西市	98.0%	
	第2次商圈 (10%以上30%未満)	計	3 14.9%		計	1 16.7%	
		白井市	21.8%	第3次から	栄町	16.7%	
		栄町	19.0%				
		我孫子市	11.0%	第3次から			
	第3次商圈 (5%以上10%未満)	計	0		計	2 8.2%	
飲食					白井市	9.8%	第2次へ
					我孫子市	7.4%	第2次へ
	合計		4 42.4%			4 37.0%	
	第1次商圈 (30%以上)	計	2 75.3%		計	3 66.1%	
		印西市	92.6%		印西市	94.4%	
		白井市	44.7%		栄町	34.3%	第2次へ
					白井市	32.1%	
贈答品	第2次商圈 (10%以上30%未満)	計	2 22.5%		計	1 14.0%	
		我孫子市	23.0%		我孫子市	14.0%	
		栄町	19.4%	第1次から			
	第3次商圈 (5%以上10%未満)	計	0		計	1 7.1%	
					鎌ヶ谷市	7.1%	圏外へ
	合計		4 50.6%			5 34.6%	
	第1次商圈 (30%以上)	計	1 53.6%		計	1 57.5%	
贈答品		印西市	53.6%		印西市	57.5%	
	第2次商圈 (10%以上30%未満)	計	3 15.2%		計	2 25.9%	
		白井市	22.9%		白井市	26.0%	
		栄町	12.4%		栄町	25.7%	
		我孫子市	12.0%	第3次から			
	第3次商圈 (5%以上10%未満)	計	0		計	2 8.3%	
					我孫子市	9.3%	第2次へ
贈答品					鎌ヶ谷市	7.1%	圏外へ
	合計		4 28.3%			5 23.2%	

図表4-5-5 印西商圏（食料品）

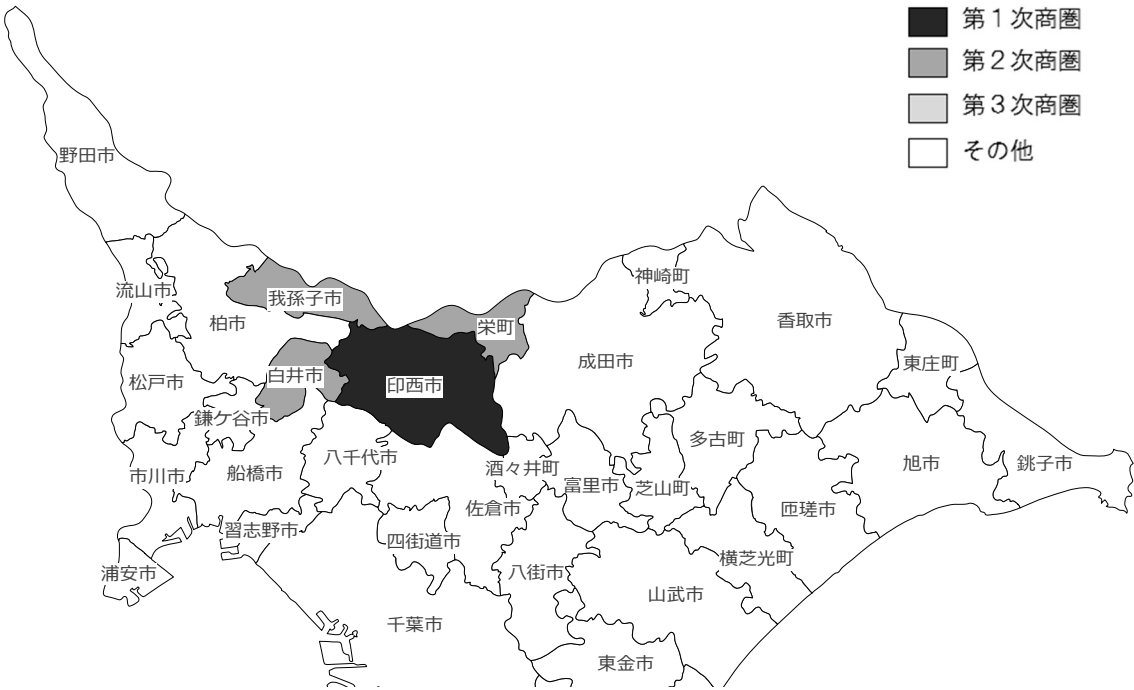


図表4-5-6 印西商圏（飲食）



- 第1次商圏
- 第2次商圏
- 第3次商圏
- その他

図表4-5-7 印西商圏（贈答品）



6. 船橋商圏（準商業中心都市）

（1）商圏の概要

船橋商圏は、葛南ブロックを中心に千葉ブロック北部、東葛ブロック南部を取り込んで形成されており、前回調査時は6市1町であったが、1町が圏外となり、6市となった。

第1次商圏は、前回調査時と変わらず、1市となった。（吸引率 70.0%）

第2次商圏は、前回調査時の3市のうち、1市が第3次商圏へ移動し、2市となった。（吸引率 20.4%）

第3次商圏は、前回調査時の2市1町のうち、1市が第2次商圏から加わる一方、1町が圏外となり、3市となった。（吸引率 6.3%）

商圏人口は、前回調査時（1,788,176 人）から 1.2%増加して、1,810,225 人（船橋市人口の約 2.8 倍・県人口の 28.8%）となった。

商圏内吸引率は、前回調査時（41.1%）から 6.7 ポイント減少して 34.4%となった。

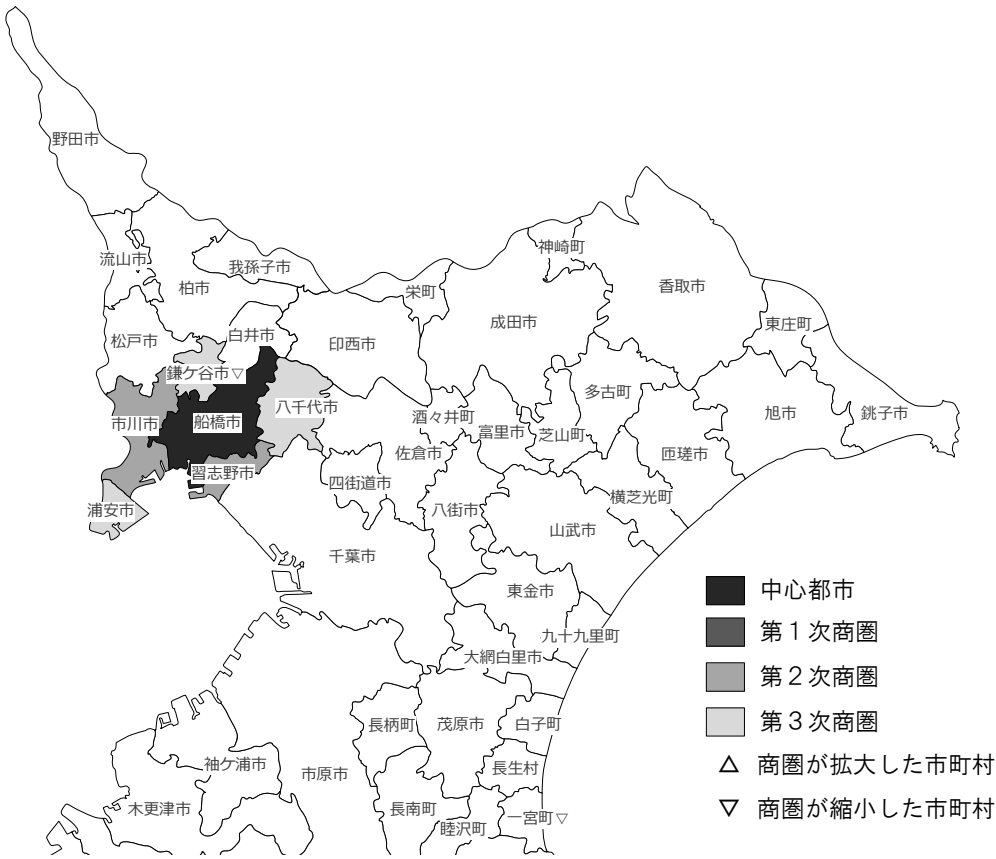
吸引人口は、前回調査時（734,612 人）から 15.3%減少して 622,241 人（船橋市人口の 96.0%・県人口の 9.9%）となった。

吸引力は、前回調査時（115.6%）から 19.6 ポイント減少して 96.0%となった。

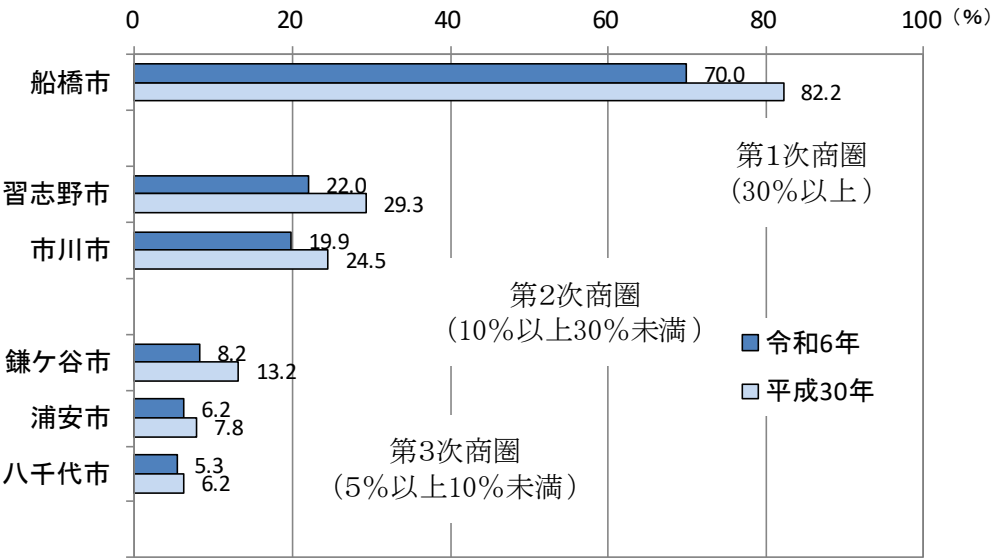
図表 4－6－1 船橋商圏の市町村別吸引率・商圏人口・吸引人口

商圏 (基準吸引率)	令和6年					平成30年		
	市町村	市町村 吸引率	市町村 人口 (商圏人口)	吸引人口	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
第1次商圏 (30%以上)	計	1	70.0%	648,364	453,595	計	1	82.2%
	船橋市		70.0%	648,364	453,595	船橋市		82.2%
第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	2	20.4%	675,561	138,032	計	3	24.0%
	習志野市		22.0%	176,214	38,812	習志野市		29.3%
	市川市		19.9%	499,347	99,220	市川市		24.5%
						鎌ヶ谷市		13.2%
第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	3	6.3%	486,330	30,614	計	3	7.0%
	鎌ヶ谷市		8.2%	109,755	8,989	一宮町		8.2%
	浦安市		6.2%	172,281	10,726	浦安市		7.8%
	八千代市		5.3%	204,294	10,899	八千代市		6.2%
合計		6	34.4%	1,810,255	622,241		7	41.1%

図表4-6-2 船橋商圏（衣料品）



図表4-6-3 船橋商圏の吸引状況（市町村別）



(2) その他品目における商圏内市町村の具体的な変化

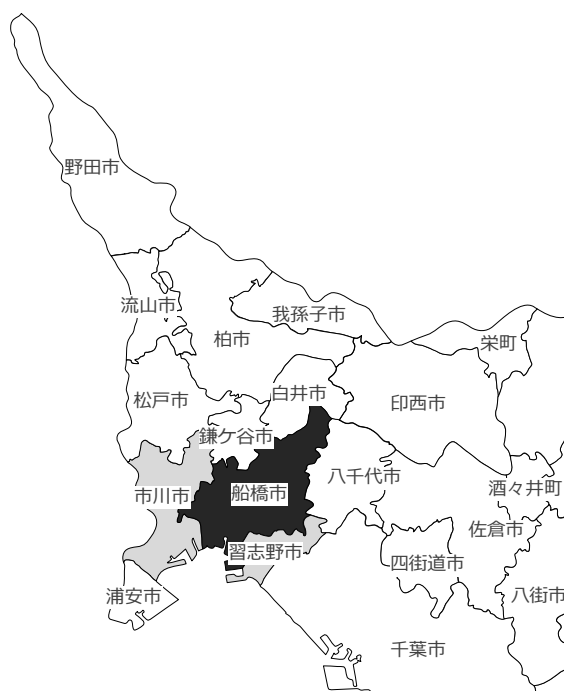
その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における船橋商圏内の市町村の変化を以下に示す。

図表4-6-4 船橋商圏の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

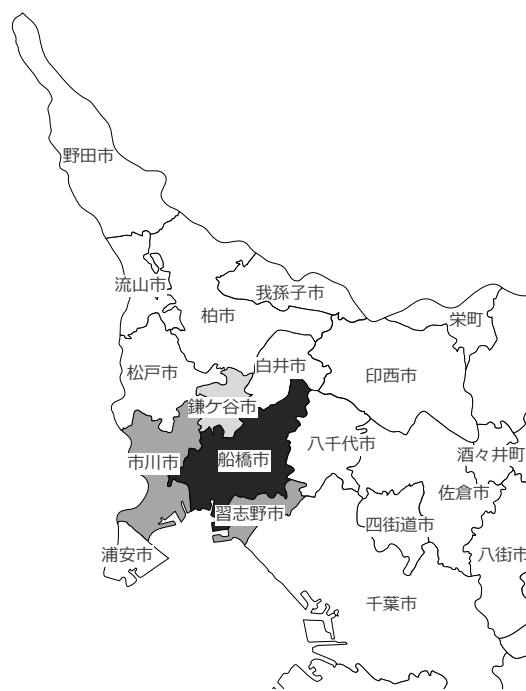
商圏 (基準吸引率)	令和6年			平成30年		
	市町村	市町村 吸引率	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
食料品	第1次商圏 (30%以上)	計 1 85.9%		計 1 90.5%		
	船橋市	85.9%		船橋市	90.5%	
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計 0		計 0		
	第3次商圏 (5%以上10%未満)	計 2 8.4%		計 2 7.8%		
	習志野市	9.6%		習志野市	9.1%	
	市川市	7.9%		市川市	7.3%	
合計		3 46.3%		3 48.2%		
飲食	第1次商圏 (30%以上)	計 1 84.3%		計 1 90.5%		
	船橋市	84.3%		船橋市	90.5%	
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計 2 12.3%		計 2 18.9%		
	習志野市	14.7%		習志野市	23.2%	
	市川市	11.5%	第3次から	鎌ケ谷市	12.2%	第3次へ
	第3次商圏 (5%以上10%未満)	計 1 6.2%		計 1 8.5%		
	鎌ケ谷市	6.2%	第2次から	市川市	8.5%	第2次へ
合計		4 44.4%		4 47.5%		
贈答品	第1次商圏 (30%以上)	計 1 62.2%		計 3 62.3%		
	船橋市	62.2%		船橋市	74.0%	
				習志野市	37.0%	第2次へ
				鎌ケ谷市	34.0%	第2次へ
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計 4 18.5%		計 3 21.4%		
	習志野市	23.4%	第1次から	市川市	23.6%	
	鎌ケ谷市	20.9%	第1次から	八千代市	17.6%	
	市川市	19.3%		白井市	15.7%	圏外へ
	八千代市	10.9%				
	第3次商圏 (5%以上10%未満)	計 0		計 0		
合計		5 35.8%		6 43.9%		

第4章 主要商圈の構造

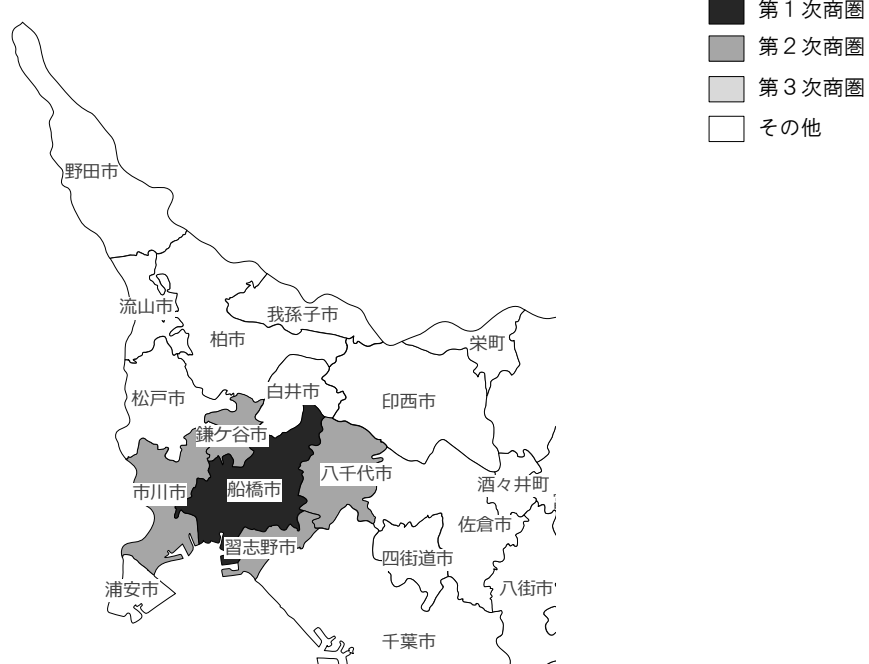
図表4-6-5 船橋商圈（食料品）



図表 4-6-6 船橋商圈（飲食）



圖表 4-6-7 船橋商圈 (贈答品)



7. 柏商圏（準商業中心都市）

（1）商圏の概要

柏商圏は、県北西部に形成されており、前回調査時では6市であったが、新たに圏外から1市が加わる一方、1市が圏外となり6市となった。

第1次商圏は、前回調査時と変わらず、3市となった。（吸引率 60.1%）

第2次商圏は、前回調査時の2市のうち、1市が第3次商圏へ移動し、新たに圏外から1市が加わり、2市となった。（吸引率 12.6%）

第3次商圏は、前回調査時の1市が圏外となり、新たに第2次商圏から1市が加わり、1市となった。（吸引率 6.3%）

商圏人口は、前回調査時（1,448,645 人）からほとんど変わらず 1,449,009 人（柏市人口の約 3.3 倍・県人口の 23.1%）となった。

商圏内吸引率は、前回調査時（39.8%）から 3.8 ポイント減少して 36.0%となった。

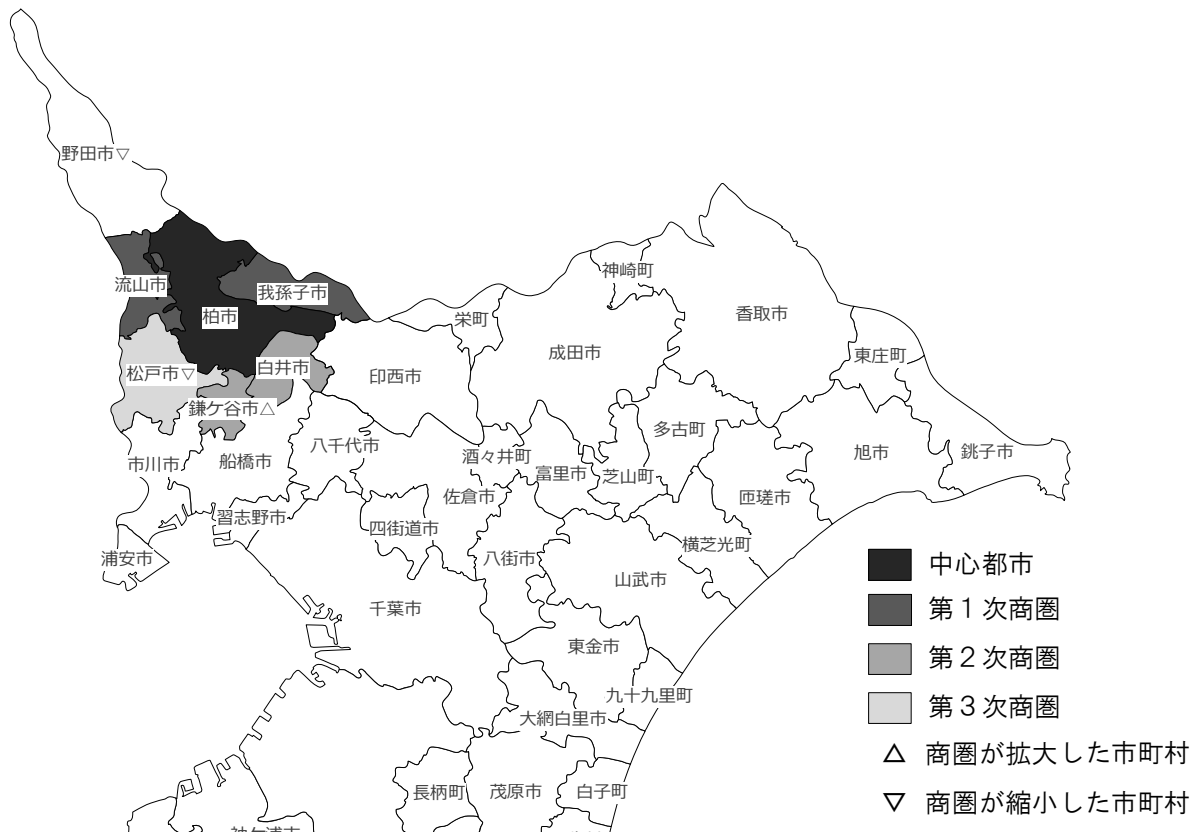
吸引人口は、前回調査時（575,954 人）から 9.5%減少して 521,205 人（柏市人口の約 1.2 倍・県人口の 8.3%）となった。

吸引力は、前回調査時（135.9%）から 16.3 ポイント減少して 119.6%となった。

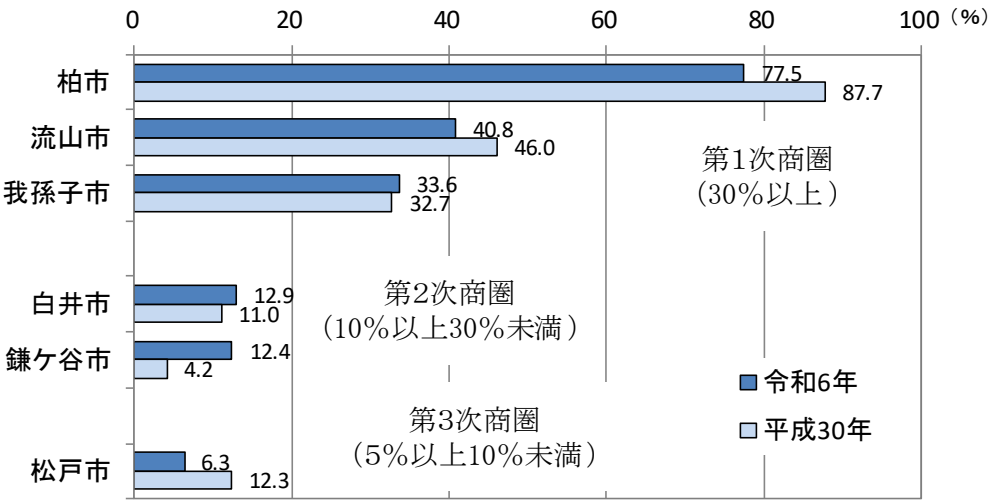
図表 4-7-1 柏商圏の市町村別吸引率・商圏人口・吸引人口

商圏 (基準吸引率)	令和6年					平成30年		
	市町村	市町村 吸引率	市町村 人口 (商圏人口)	吸引人口	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
第1次商圏 (30%以上)	計	3	60.1%	778,363	467,974	計	3	67.4%
	柏市		77.5%	435,702	337,582	柏市		87.7%
	流山市		40.8%	212,497	86,633	流山市		46.0%
	我孫子市		33.6%	130,164	43,759	我孫子市		32.7%
第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	2	12.6%	171,309	21,548	計	2	12.2%
	白井市		12.9%	61,554	7,947	松戸市		12.3%
	鎌ヶ谷市		12.4%	109,755	13,601	白井市		11.0%
第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	1	6.3%	499,337	31,683	計	1	5.0%
	松戸市		6.3%	499,337	31,683	野田市		5.0%
合計		6	36.0%	1,449,009	521,205		6	39.8%

図表4-7-2 柏商圏（衣料品）



図表4-7-3 柏商圏の吸引状況（市町村別）



(2) その他品目における商圈内市町村の具体的な変化

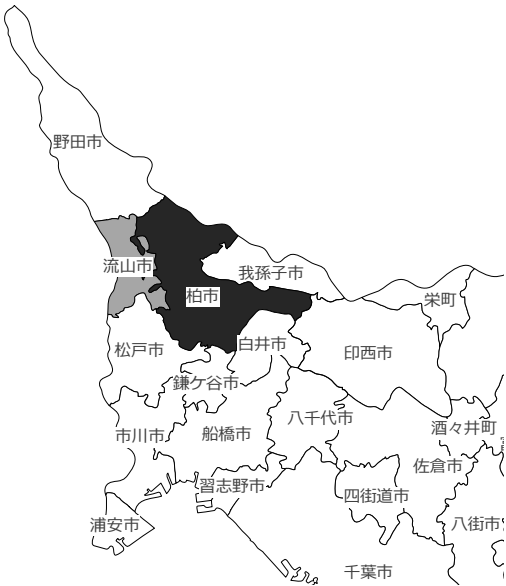
その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における柏商圈内の市町村の変化を以下に示す。

図表4-7-4 柏商圈の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

	商圈 (基準吸引率)	令和6年			平成30年		
		市町村	市町村 吸引率	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
食料品	第1次商圈 (30%以上)	計	1 94.7%		計	1 96.0%	
		柏市	94.7%		柏市	96.0%	
	第2次商圈 (10%以上30%未満)	計	1 20.1%		計	1 20.9%	
		流山市	20.1%		流山市	20.9%	
	第3次商圈 (5%以上10%未満)	計	0		計	0	
合計			2 70.3%			2 72.9%	
飲食	第1次商圈 (30%以上)	計	2 73.5%		計	2 78.4%	
		柏市	91.3%		柏市	93.0%	
		流山市	36.9%		流山市	45.6%	
	第2次商圈 (10%以上30%未満)	計	1 18.4%		計	1 17.6%	
		我孫子市	18.4%		我孫子市	17.6%	
贈答品	第3次商圈 (5%以上10%未満)	計	0		計	1 6.7%	
					白井市	6.7%	圏外へ
	合計		3 64.3%			4 63.0%	
贈答品	第1次商圈 (30%以上)	計	3 61.0%		計	3 70.5%	
		柏市	73.0%		柏市	82.0%	
		流山市	47.4%		流山市	58.9%	
		我孫子市	43.4%		我孫子市	49.8%	
	第2次商圈 (10%以上30%未満)	計	4 15.5%		計	4 19.1%	
		白井市	24.2%		松戸市	21.8%	
		鎌ヶ谷市	15.7%	第3次から	白井市	15.7%	
		松戸市	15.6%		野田市	15.6%	
		野田市	11.6%		印西市	13.0%	第3次へ
	第3次商圈 (5%以上10%未満)	計	1 7.2%		計	1 6.4%	
		印西市	7.2%	第2次から	鎌ヶ谷市	6.4%	第2次へ
	合計		8 35.7%			8 41.3%	

第4章 主要商圏の構造

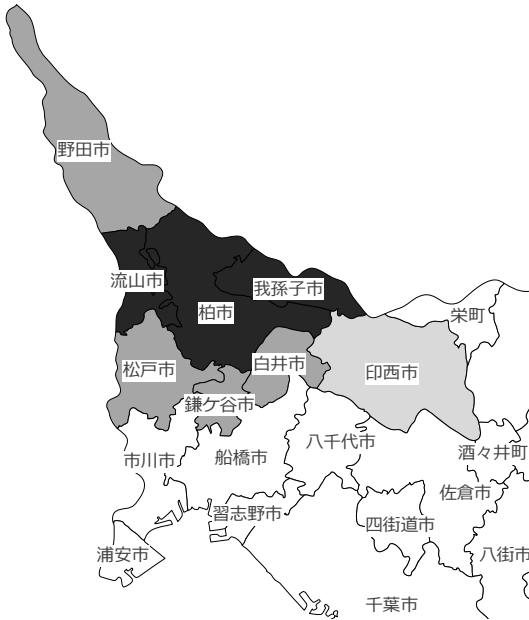
図表4-7-5 柏商圏（食料品）



図表4-7-6 柏商圏（飲食）



図表4-7-7 柏商圏（贈答品）



- 第1次商圏
- 第2次商圏
- 第3次商圏
- その他

8. 東金商圏（準商業中心都市）

（1）商圏の概要

東金商圏は、山武ブロックを中心に印旛ブロック南部を取り込んで形成されており、前回調査時と変わらず、4市2町となった。

第1次商圏は、前回調査時と変わらず2市1町となった。（吸引率 50.2%）

第2次商圏も、前回調査時と変わらず1市1町となった。（吸引率 13.9%）

第3次商圏も、前回調査時と変わらず1市となった。（吸引率 5.8%）

商圏人口は、前回調査時（264,963人）から5.7%減少して249,820人（東金市人口の約4.4倍・県人口4.0%）となった。

商圏内吸引率は、前回調査時（30.6%）から1.9ポイント減少して28.7%となった。

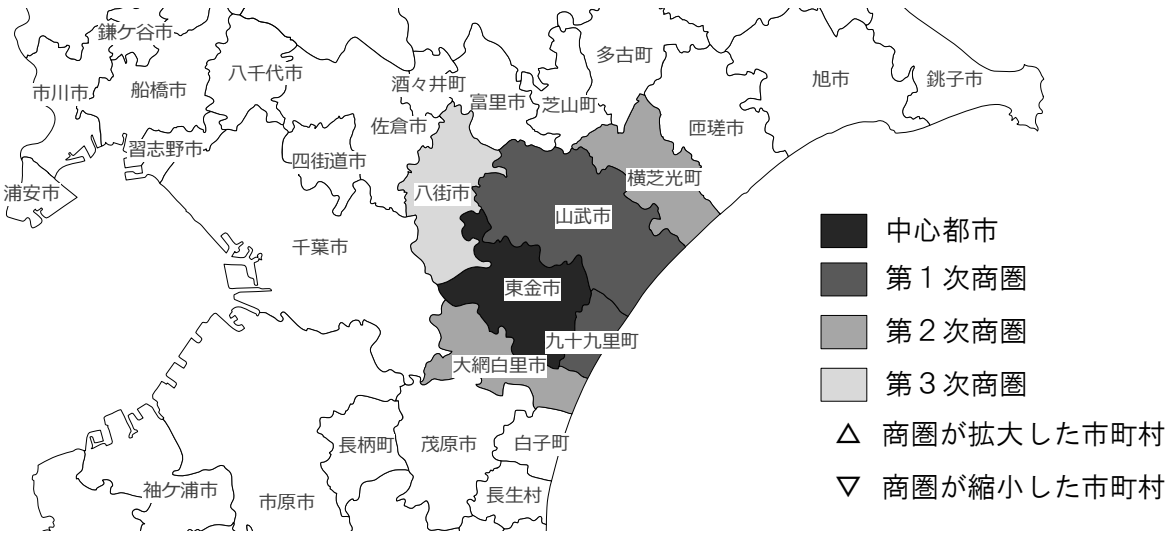
吸引人口は、前回調査時（81,111人）から11.6%減少して71,726人（東金市人口の約1.3倍・県人口の1.1%）となった。

吸引力は、前回調査時（136.6%）から11.0ポイント減少して125.6%となった。

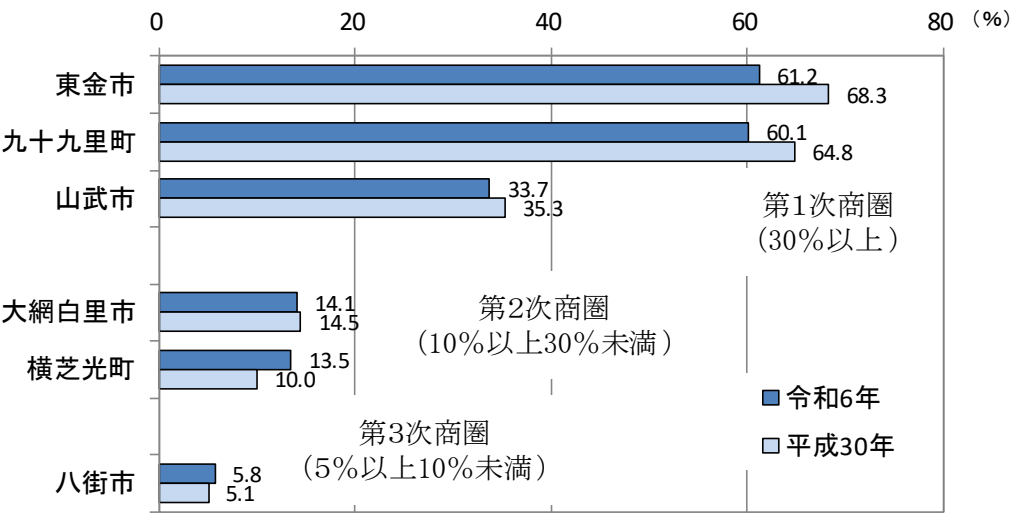
図表4－8－1 東金商圏の市町村別吸引率・商圏人口・吸引人口

商圏 (基準吸引率)	令和6年					平成30年			
	市町村	市町村 吸引率	市町村 人口 (商圏人口)	吸引人口	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化	
第1次商圏 (30%以上)	計	3	50.2%	116,443	58,504	計	3	54.6%	
	東金市		61.2%	57,098	34,950	東金市		68.3%	
	九十九里町		60.1%	13,372	8,040	九十九里町		64.8%	
	山武市		33.7%	45,973	15,515	山武市		35.3%	
第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	2	13.9%	67,899	9,436	計	2	13.1%	
	大網白里市		14.1%	46,985	6,618	大網白里市		14.5%	
	横芝光町		13.5%	20,914	2,818	横芝光町		10.0%	
第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	1	5.8%	65,478	3,786	計	1	5.1%	
	八街市		5.8%	65,478	3,786	八街市		5.1%	
合計		6	28.7%	249,820	71,726		6	30.6%	

図表4－8－2 東金商圏（衣料品）



図表4－8－3 東金商圏の吸引状況（市町村別）



(2) その他品目における商圏内市町村の具体的な変化

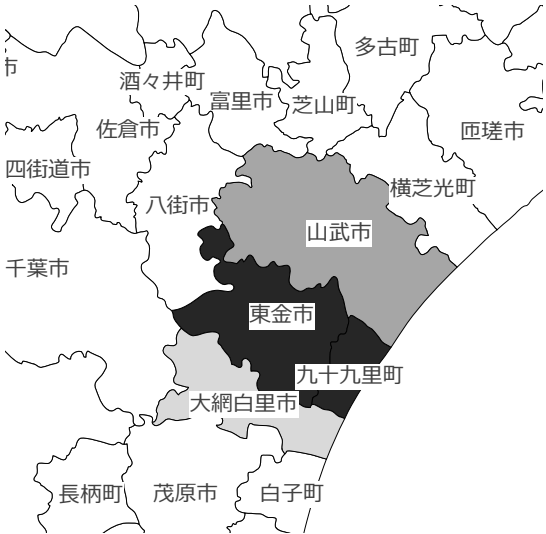
その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における東金商圏内の市町村の変化を以下に示す。

図表4-8-4 東金商圏の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

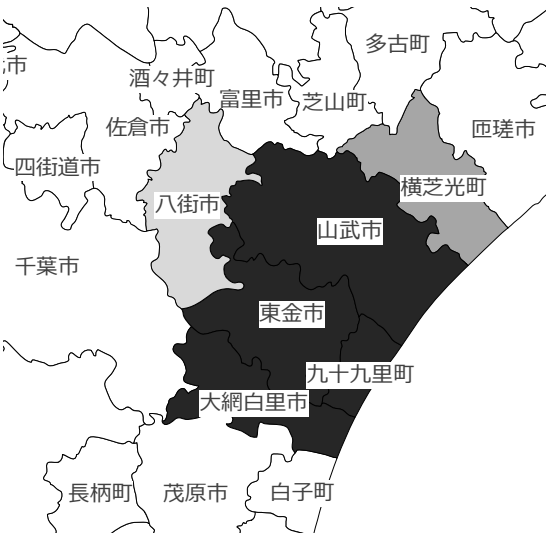
	商圏 (基準吸引率)	令和6年			平成30年		
		市町村	市町村 吸引率	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
食料品	第1次商圏 (30%以上)	計 2	79.6%		計 2	80.8%	
		東金市	90.0%		東金市	93.4%	
		九十九里町	34.9%		九十九里町	32.6%	
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計 1	11.2%		計 2	15.3%	
		山武市	11.2%		大網白里市	16.6%	第3次へ
					山武市	14.1%	
	第3次商圏 (5%以上10%未満)	計 1	8.4%	第2次から	計 0		
		大網白里市	8.4%				
	合計	4	39.9%		4	43.6%	
飲食	第1次商圏 (30%以上)	計 4	62.2%		計 4	61.9%	
		東金市	90.1%		東金市	88.2%	
		九十九里町	86.6%		九十九里町	88.0%	
		山武市	51.4%		山武市	50.8%	
		大網白里市	31.7%		大網白里市	32.7%	
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計 1	22.8%		計 1	15.1%	
		横芝光町	22.8%		横芝光町	15.1%	
	第3次商圏 (5%以上10%未満)	計 1	9.2%		計 1	7.1%	
		八街市	9.2%		八街市	7.1%	
	合計	6	45.0%		6	43.6%	
贈答品	第1次商圏 (30%以上)	計 2	43.4%		計 2	50.7%	
		東金市	43.1%		東金市	51.0%	
		九十九里町	44.9%		九十九里町	49.5%	
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計 2	12.0%		計 2	15.7%	
		大網白里市	13.1%		山武市	19.0%	
		山武市	10.8%		大網白里市	12.3%	
	第3次商圏 (5%以上10%未満)	計 0			計 0		
	合計	4	25.5%		4	30.8%	

第4章 主要商圏の構造

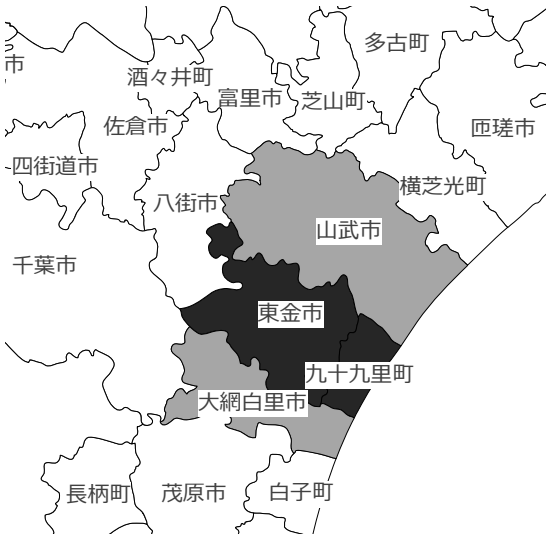
図表4-8-5 東金商圏（食料品）



図表4-8-6 東金商圏（飲食）



図表4-8-7 東金商圏（贈答品）



- 第1次商圏
- 第2次商圏
- 第3次商圏
- その他

9. 茂原商圏（準商業中心都市）

（1）商圏の概要

茂原商圏は、県南東部に形成されており、前回調査と変わらず4市7町1村となった。

第1次商圏は、前回調査時の2市6町1村に、第2次商圏から1町加わり、2市7町1村となった。（吸引率 54.5%）

第2次商圏は、前回調査時の1市1町のうち、1町が第1次商圏へ移動し、第3次商圏から1市が加わり、2市となった。（吸引率 14.5%）

第3次商圏は、前回調査時の1市が第2次商圏へ移動し、該当する市町村はなくなった。

商圏人口は、前回調査時（266,220人）から6.6%減少して248,724人（茂原市人口の約2.9倍・県人口の4.0%）となった。

商圏内吸引率は、前回調査時（45.7%）から1.2ポイント減少して44.5%となった。

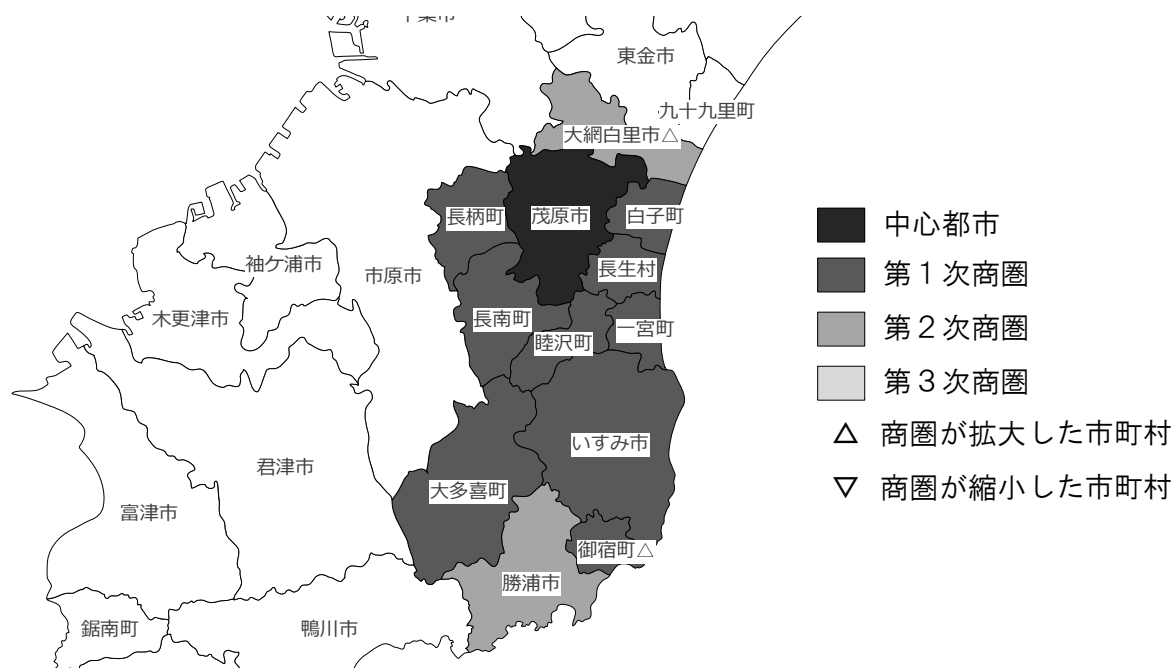
吸引人口は、前回調査時（121,746人）から9.1%減少して110,645人（茂原市人口の約1.3倍・県人口の1.8%）となった。

吸引力は、前回調査時（138.0%）から7.0ポイント減少して131.0%となった。

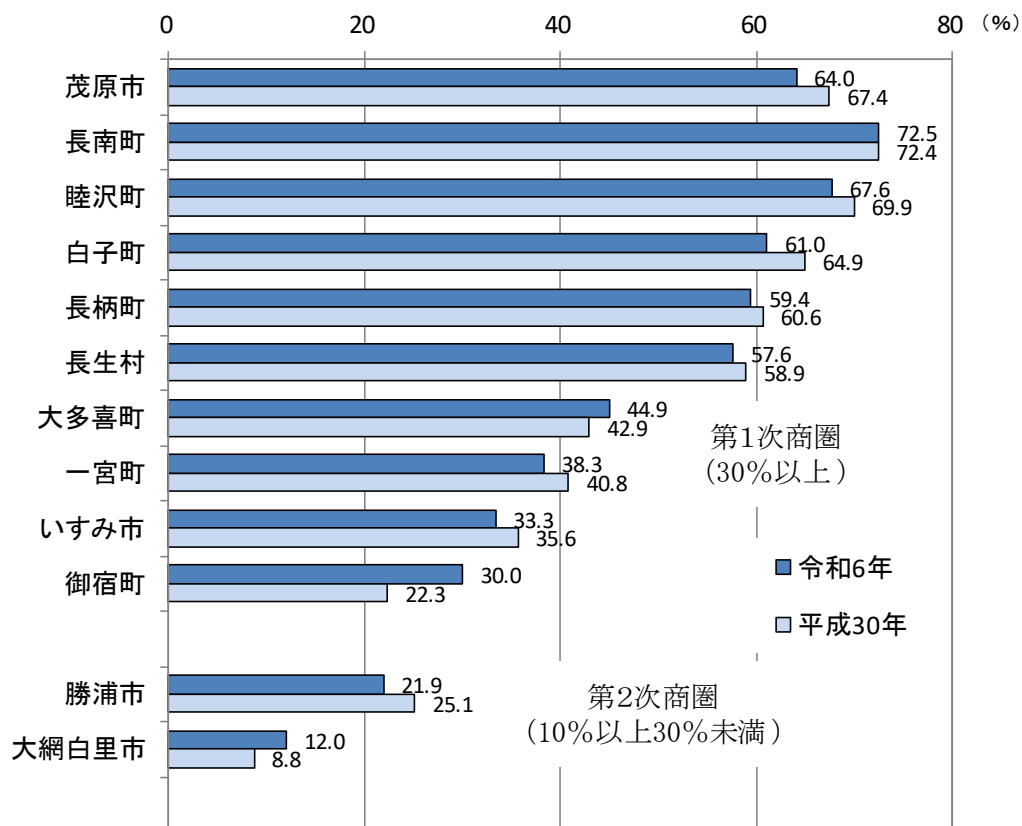
図表4-9-1 茂原商圏の市町村別吸引率・商圏人口・吸引人口

商圏 (基準吸引率)	令和6年					平成30年		
	市町村	市町村 吸引率	市町村 人口 (商圏人口)	吸引人口	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
第1次商圏 (30%以上)	計	10	54.5%	186,355	101,618	計	9	57.8%
	茂原市		64.0%	84,470	54,069	茂原市		67.4%
	長南町		72.5%	6,602	4,785	長南町		72.4%
	睦沢町		67.6%	6,394	4,324	睦沢町		69.9%
	白子町		61.0%	9,711	5,926	白子町		64.9%
	長柄町		59.4%	6,228	3,701	長柄町		60.6%
	長生村		57.6%	13,138	7,563	長生村		58.9%
	大多喜町		44.9%	8,154	3,662	大多喜町		42.9%
	一宮町		38.3%	11,847	4,534	一宮町		40.8%
	いすみ市		33.3%	33,320	11,107	いすみ市		35.6%
	御宿町		30.0%	6,491	1,947			
第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	2	14.5%	62,369	9,027	計	2	24.3%
	勝浦市		21.9%	15,384	3,376	勝浦市		25.1%
	大網白里市		12.0%	46,985	5,650	御宿町		22.3%
第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	0				計	1	8.8%
						大網白里市		8.8%
合計		12	44.5%	248,724	110,645		12	45.7%

図表4-9-2 茂原商圏（衣料品）



図表4-9-3 茂原商圏の吸引状況（市町村別）



(2) その他品目における商圏内市町村の具体的な変化

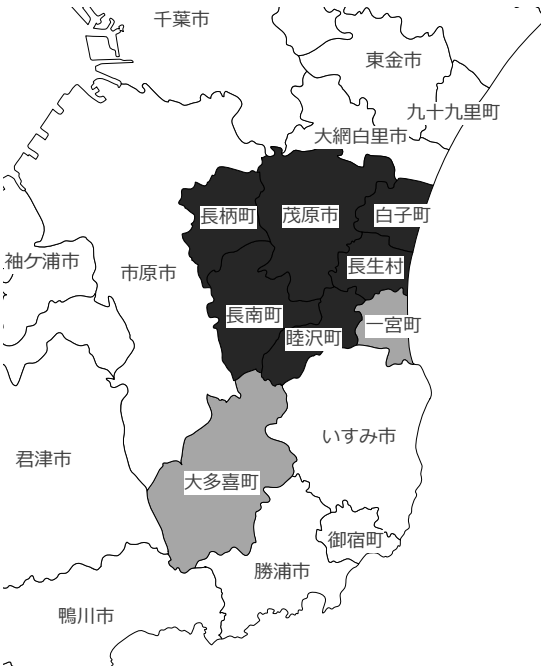
その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における茂原商圏内の市町村の変化を以下に示す。

図表4-9-4 茂原商圏の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

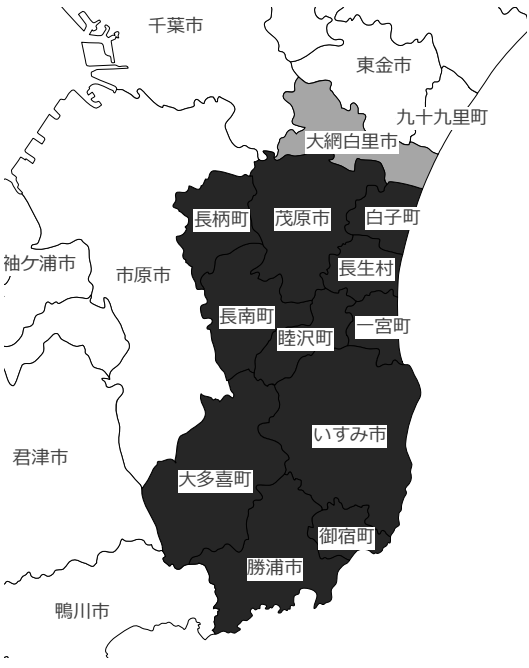
	商圏 (基準吸引率)	令和6年			平成30年		
		市町村	市町村 吸引率	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
食料品	第1次商圏 (30%以上)	計	6 84.7%		計	6 84.7%	
		茂原市	93.5%		茂原市	93.6%	
		長南町	91.0%		長南町	87.0%	
		長柄町	80.9%		長柄町	84.5%	
		白子町	77.1%		長生村	64.4%	
		長生村	54.5%		白子町	59.8%	
		睦沢町	39.4%		睦沢町	48.9%	
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	2 18.1%		計	2 13.0%	
		大多喜町	23.3%		大多喜町	13.1%	
		一宮町	14.6%		一宮町	12.9%	
飲食	第1次商圏 (30%以上)	計	0		計	1 6.7%	
					いすみ市	6.7%	圏外へ
		合計	8 75.7%			9 61.9%	
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	1 25.9%		計	2 22.6%	
		大網白里市	25.9%		大網白里市	25.1%	
					勝浦市	15.7%	第2次へ
	第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	0		計	0	
	合計	12	69.3%		12	65.7%	
贈答品	第1次商圏 (30%以上)	計	7 42.5%		計	7 50.1%	
		茂原市	43.6%		茂原市	52.4%	
		睦沢町	50.0%		睦沢町	60.7%	
		長南町	46.7%		長生村	52.1%	
		長柄町	45.7%		長南町	50.6%	
		白子町	38.9%		長柄町	44.8%	
		長生村	38.3%		白子町	41.7%	
		大多喜町	30.7%	第2次から	一宮町	34.9%	第2次へ
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	4 17.4%		計	4 18.7%	
		一宮町	19.7%	第1次から	大多喜町	24.4%	第1次へ
		いすみ市	19.5%		いすみ市	22.4%	
		御宿町	13.6%		勝浦市	11.3%	
		勝浦市	12.5%		御宿町	10.3%	
	第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	0		計	0	
	合計	11	34.2%		11	39.8%	

第4章 主要商圏の構造

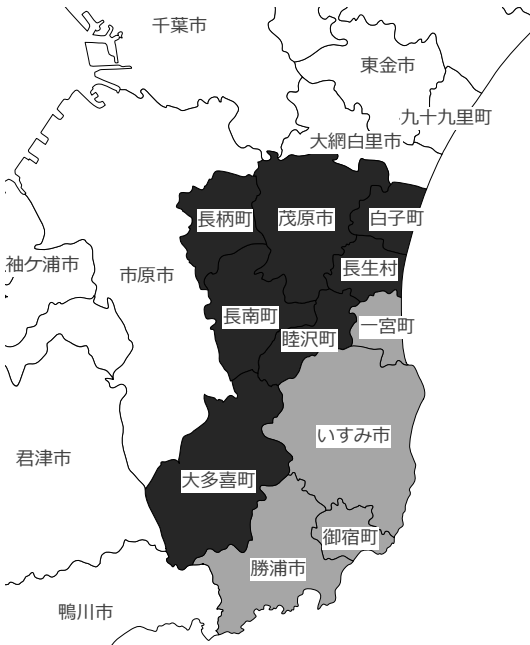
図表4-9-5 茂原商圏（食料品）



図表4-9-6 茂原商圏（飲食）



図表4-9-7 茂原商圏（贈答品）



- 第1次商圏
- 第2次商圏
- 第3次商圏
- その他

10. 館山商圏（準商業中心都市）

（1）商圏の概要

館山商圏は、安房ブロック一帯の県の南端を中心に形成されており、前回調査時と変わらず3市1町となった。

第1次商圏は、前回調査時と変わらず2市1町となった。（吸引率 70.0%）

第2次商圏は、前回調査時の1市が第3次商圏へ移動し、該当する市町村はなくなった。

第3次商圏は、前回調査時で該当する市町村はなかったが、第2次商圏から1市が加わり、1市となった。（吸引率 8.5%）

商圏人口は、前回調査時（123,461人）から8.8%減少して112,567人（館山市人口の約2.6倍、県人口の1.8%）となった。

商圏内吸引率は、前回調査時（57.5%）から4.0ポイント減少して53.5%となった。

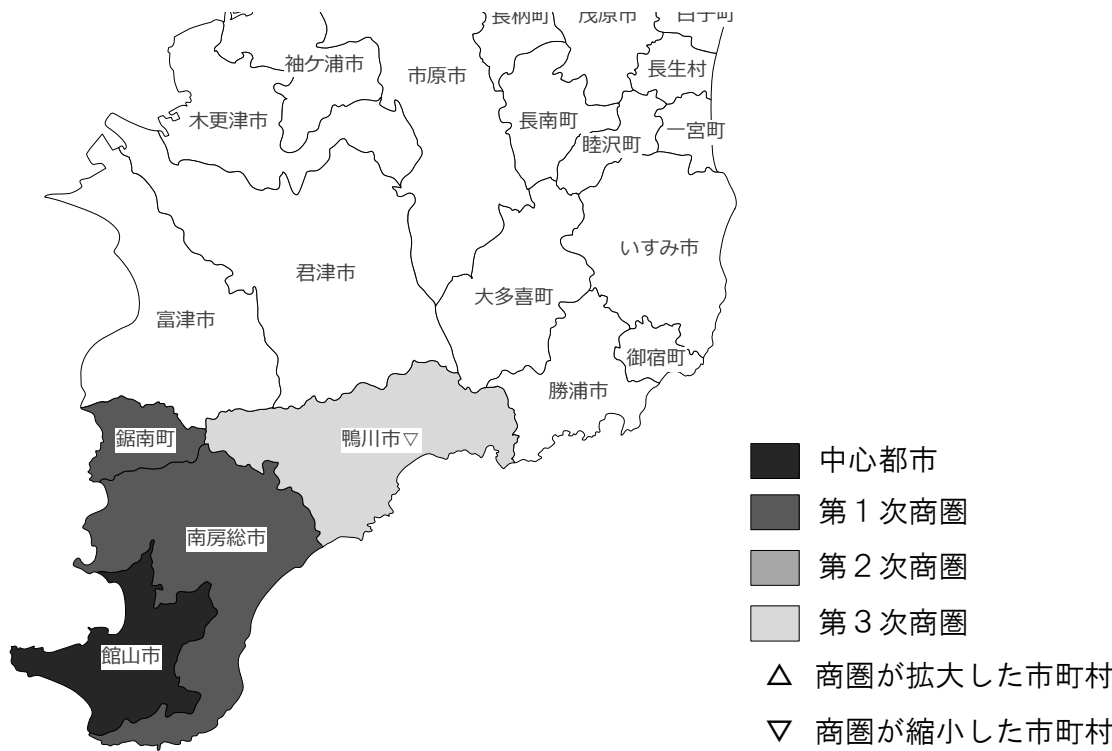
吸引人口は、前回調査時（70,973人）から15.2%減少して60,168人（館山市人口の約1.4倍・県人口の1.0%）となった。

吸引力は、前回調査時（154.3%）から14.5ポイント減少して139.8%となった。

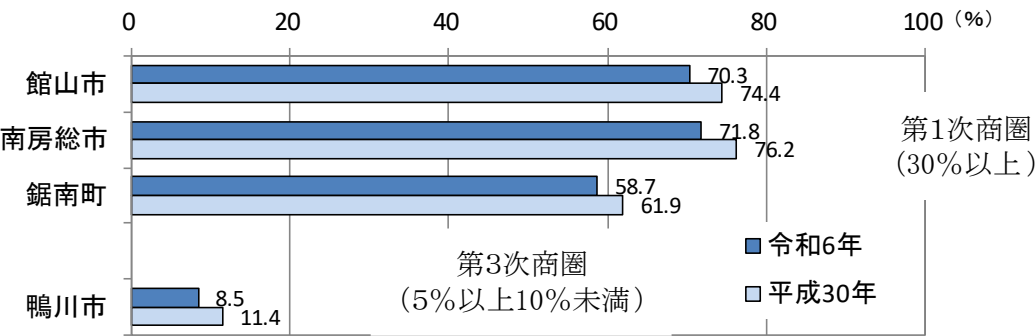
図表4-10-1 館山商圏の市町村別吸引率・商圏人口・吸引人口

商圏 (基準吸引率)	令和6年					平成30年		
	市町村	市町村 吸引率	市町村 人口 (商圏人口)	吸引人口	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
第1次商圏 (30%以上)	計	3	70.0%	82,316	57,610	計	3	74.1%
	館山市		70.3%	43,030	30,237	館山市		74.4%
	南房総市		71.8%	33,000	23,685	南房総市		76.2%
	鋸南町		58.7%	6,286	3,688	鋸南町		61.9%
第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	0				計	1	11.4%
						鴨川市		11.4%
第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	1	8.5%	30,251	2,557	計	0	
	鴨川市		8.5%	30,251	2,557			
合計		4	53.5%	112,567	60,168		4	57.5%

図表4－10－2 館山商圏（衣料品）



図表4－10－3 館山商圏の吸引状況（市町村別）



(2) その他品目における商圏内市町村の具体的な変化

その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における館山商圏内の市町村の変化を以下に示す。

図表4-10-4 館山商圏の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

	商圏 (基準吸引率)	令和6年			平成30年		
		市町村	市町村 吸引率	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
食料品	第1次商圏 (30%以上)	計 2	76.2%		計 2	81.5%	
		館山市	95.5%		館山市	97.0%	
		南房総市	51.1%		南房総市	62.3%	
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計 1	26.9%		計 1	22.4%	
		鋸南町	26.9%		鋸南町	22.4%	
飲食	第3次商圏 (5%以上10%未満)	計 0			計 0		
	合計	3	72.5%		3	76.6%	
	第1次商圏 (30%以上)	計 3	86.4%		計 3	89.5%	
		館山市	92.9%		館山市	95.7%	
		南房総市	83.4%		南房総市	88.2%	
贈答品		鋸南町	57.4%		鋸南町	58.3%	
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計 0			計 0		
	第3次商圏 (5%以上10%未満)	計 1	5.8%		計 0		
		鴨川市	5.8%	新規			
	合計	4	64.7%		3	89.5%	
贈答品	第1次商圏 (30%以上)	計 3	52.7%		計 3	65.0%	
		館山市	56.4%		館山市	68.8%	
		南房総市	51.8%		南房総市	64.4%	
		鋸南町	32.4%		鋸南町	44.4%	
	第2次商圏 (10%以上30%未満)	計 0			計 0		
贈答品	第3次商圏 (5%以上10%未満)	計 0			計 1	6.3%	
					鴨川市	6.3%	圏外へ
	合計	3	52.7%		4	49.4%	

第4章 主要商圏の構造

図表4-10-5 館山商圏（食料品）



図表4-10-6 館山商圏（飲食）



図表4-10-7 館山商圏（贈答品）



- 第1次商圏
- 第2次商圏
- 第3次商圏
- その他

1 1. 単独商圏都市（八千代商圏、佐倉商圏、松戸商圏）

（1）各商圏の概要

八千代商圏と佐倉商圏は前回調査時と変わらなかった。

松戸商圏は、前回調査時の2市のうち、第3次商圏の1市が圏外となり、新たに圏外から1市が加わった結果、入れ替わった形での2市となった。

図表4-11-1 八千代商圏の市町村別吸引率・商圏人口・吸引人口

商圏 (基準吸引率)	令和6年					平成30年		
	市町村	市町村 吸引率	市町村 人口 (商圏人口)	吸引人口	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
第1次商圏 (30%以上)	計	1	67.2%	204,294	137,286	計	1	75.2%
	八千代市		67.2%	204,294	137,286		八千代市	75.2%
第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	0				計	0	
第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	0				計	0	
合計	1	67.2%	204,294	137,286		1	75.2%	

図表4-11-2 佐倉商圏の市町村別吸引率・商圏人口・吸引人口

商圏 (基準吸引率)	令和6年					平成30年		
	市町村	市町村 吸引率	市町村 人口 (商圏人口)	吸引人口	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
第1次商圏 (30%以上)	計	1	62.1%	164,517	102,214	計	1	62.3%
	佐倉市		62.1%	164,517	102,214		佐倉市	62.3%
第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	0				計	0	
第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	1	7.4%	20,168	1,484	計	1	6.4%
	酒々井町		7.4%	20,168	1,484		酒々井町	6.4%
合計	2	56.1%	184,685	103,699		2	56.3%	

図表4-11-3 松戸商圏の市町村別吸引率・商圏人口・吸引人口

商圏 (基準吸引率)	令和6年					平成30年		
	市町村	市町村 吸引率	市町村 人口 (商圏人口)	吸引人口	前回調査から の区分の変化	市町村	市町村 吸引率	今回調査での 区分の変化
第1次商圏 (30%以上)	計	1	65.4%	499,337	326,666	計	1	63.2%
	松戸市		65.4%	499,337	326,666		松戸市	63.2%
第2次商圏 (10%以上30%未満)	計	0				計	0	
第3次商圏 (5%以上10%未満)	計	1	5.9%	109,755	6,505	計	1	6.5%
	鎌ヶ谷市		5.9%	109,755	6,505 新規		市川市	6.5% 圏外へ
合計	2	54.7%	609,092	333,171		2	34.8%	

